

# 第4回 津山市総合計画審議会 次第

日 時 平成27年6月4日(木)  
13時30分～  
場 所 津山市役所 2F 大会議室

## 1 開 会

## 2 市民憲章唱和

## 3 報 告 事 項

- (1) 地区別及び分野別懇談会参加者に対するアンケート調査結果について  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- (2) グループインタビュー調査結果について・・・・・・・・・・資料2
- (3) 職員ワークショップの実施結果について・・・・・・・・・・資料3
- (4) 転出入者アンケート調査結果報告について・・・・・・・・・・資料4
- (5) インターネット・アンケート調査結果報告について・・・・・・・・資料5
- (6) 市民ワークショップの実施結果(速報)について

## 4 協 議 事 項

- (1) 津山市第5次総合計画基本構想骨子案について・・・・・・・・・・資料6  
イメージ図

## 5 そ の 他

- (1) 今後のスケジュールについて・・・・・・・・・・・・・・・・別紙1

## 6 閉 会

# 第4回 津山市総合計画審議会配席表 (平成27年6月4日現在)

\*敬称 略

美作大学 教授 鶴崎 実  
 津山市小学校校長会 会長 居森 宏治  
 岡山県美作県民局 局長 村木 正司  
 就実大学 経営学部 長 杉山 慎策  
 津山市観光協会 会長 竹内 佑宣  
 津山市体育協会 理事長 武川 信吾

会長 副会長

津山市社会福祉協議会  
 常務理事 土井 京三

津山市保育協議会  
 会長 土居 義幸

津山市消防団  
 団長 土肥 祥嗣

岡山県津山警察署  
 署長 中村 智彦

津山農業協働組合  
 代表理事専務 早瀬 賢治

市民公募委員  
 廣本 慎太郎

津山市老人クラブ  
 連合会 会長 藤本 毅

中山間地域懇談会  
 勝北地域代表 前田 康孝

津山市医師会  
 副会長 薄元 亮二

中山間地域懇談会  
 阿波地域代表 小椋 懋

津山青年会議所  
 理事長 河原 淳

中山間地域懇談会  
 加茂地域代表 菅田 貞男

津山工業高等専門学校  
 教授 小西 大二郎

津山市連合町内会  
 会長 坂本 道治

中山間地域懇談会  
 久米地域代表 杉山 和之

NPO法人つやまNPO  
 支援センター 理事長 鈴木 康正

津山市民生児童委員会  
 連合協議会 会長 高山 科子

傍聴者席

津山市政策調整室 参事 明楽 智雄  
 津山市特別理事 常藤 勸治  
 津山市政策調整室長 小賀 智子  
 つながる地域づくり研究所 代表理事 一井 暁子  
 つながる地域づくり研究所 専務理事 林 和弘

津山市政策調整室 企画主幹 定久 誠

事務局

裏面に委員一覧名簿

## 津山市第5次総合計画審議会 委員名簿

H27.6.4現在

番号	氏 名	所属団体	所属団体役職
1	居 森 宏 治	津山市小学校校長会	会 長
2	鷓 崎 実	美 作 大 学	教 授
3	薄 元 亮 二	津 山 市 医 師 会	副 会 長
4	小 椋 懋	中 山 間 地 域 懇 談 会	阿波地域代表
5	河 原 淳	津 山 青 年 会 議 所	理 事 長
6	菅 田 貞 男	中 山 間 地 域 懇 談 会	加茂地域代表
7	菊 岡 美 和	公 募 委 員	
8	小 西 大 二 郎	津山工業高等専門学校	教 授
9	坂 本 道 治	津 山 市 連 合 町 内 会	会 長
10	杉 山 和 之	中 山 間 地 域 懇 談 会	久米地域代表
11	杉 山 慎 策	就 実 大 学 経 営 学 部	学 部 長
12	鈴 木 康 正	N P O 法 人 つ や ま N P O 支 援 セ ン タ ー	理 事 長
13	高 山 科 子	津山市民生児童委員連合協議会	会 長
14	竹 内 佑 宜	津 山 市 観 光 協 会	会 長
15	武 川 信 吾	津 山 市 体 育 協 会	理 事 長
16	田 村 正 敏	作 州 津 山 商 工 会	会 長
17	土 井 京 三	津山市社会福祉協議会	常 務 理 事
18	土 居 義 幸	津 山 市 保 育 協 議 会	会 長
19	土 肥 祥 嗣	津 山 市 消 防 団	団 長
20	豊 田 昌 稔	津山市PTA連合会	会 長
21	中 村 智 彦	岡 山 県 津 山 警 察 署	署 長
22	早 瀬 賢 治	津 山 農 業 協 同 組 合	代 表 理 事 専 務
23	廣 本 慎 太 郎	公 募 委 員	
24	福 田 直 樹	津 山 市 森 林 組 合	参 事
25	藤 本 貴 子	津山愛育委員連合会	会 長
26	藤 本 毅	津山市老人クラブ連合会	会 長
27	本 郷 泰 洋	津 山 市 中 学 校 校 長 会	会 長
28	前 田 康 孝	中 山 間 地 域 懇 談 会	勝北地域代表
29	松 田 欣 也	津 山 商 工 会 議 所	会 頭
30	村 木 正 司	岡 山 県 美 作 県 民 局	局 長
31	八 木 芙 佐 子	津 山 市 文 化 連 盟	会 長

(50音順 敬称略)

# 地区別及び分野別懇談会参加者に対するアンケート調査結果

平成27年6月

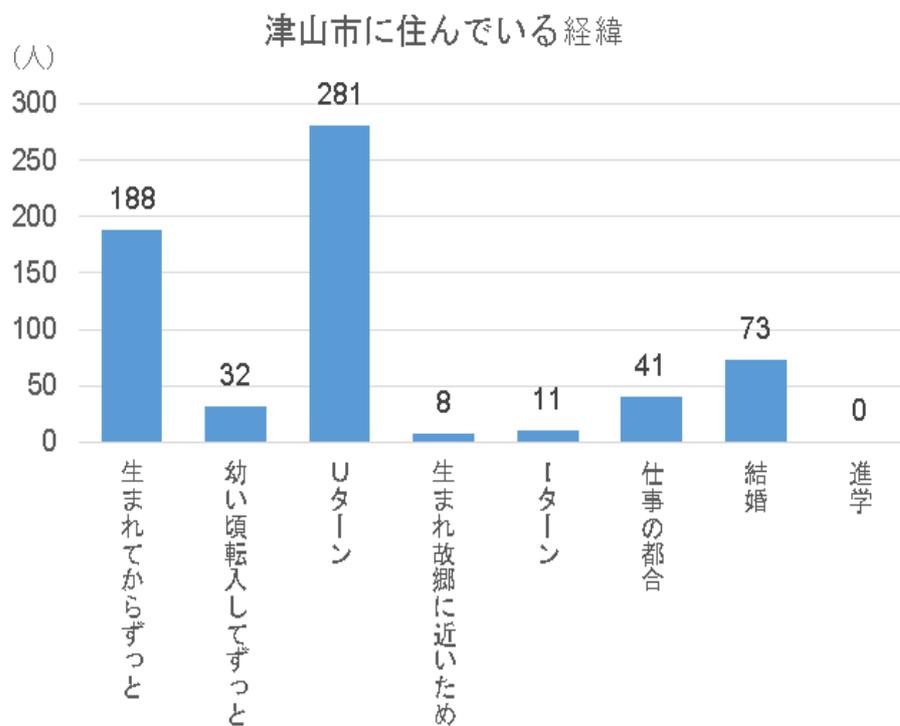
津山市総合企画部政策調整室

## 【調査概要】

- ・ 回答総数 651（設問により有効回答数は異なる）
- ・ 調査日：平成 27 年 1 月 17 日～2 月 22 日（懇談会会場にて）
- ・ 調査対象：地区別および分野別懇談会参加者  
（男性 79.1% 女性 20.9% / 平均年齢 63.7 歳）
- ・ 調査手法：会場調査・記入式

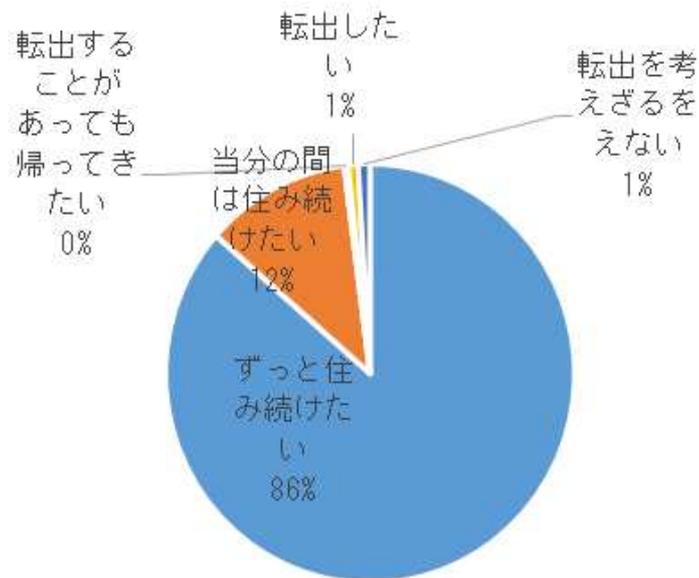
あなたが、津山市に住んでおられる経緯について、おたずねします。

- 1 位 津山市で生まれ育ち、進学や就職で転出した後、Uターンしてこられた方  
（44.3%）
- 2 位 生まれてからずっと津山市に住んでいる方（29.7%）
- 3 位 結婚（11.5%）
- 4 位 仕事の都合（6.5%）



今後も津山市に住み続けたいですか？

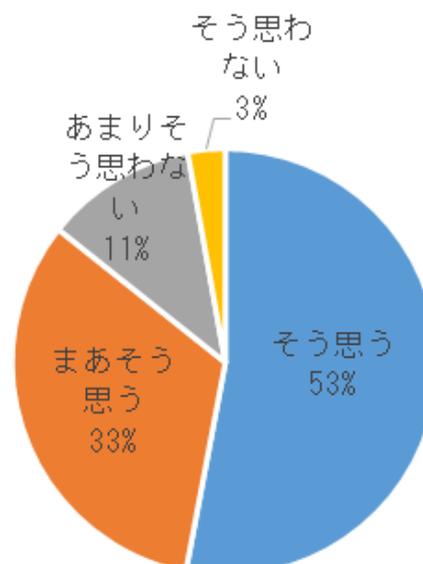
- ・定住意向（98.2%）が非常に強い。



今後も津山市に住み続けたいか

お子さんやお孫さんにも津山市に住み続けてほしいですか？

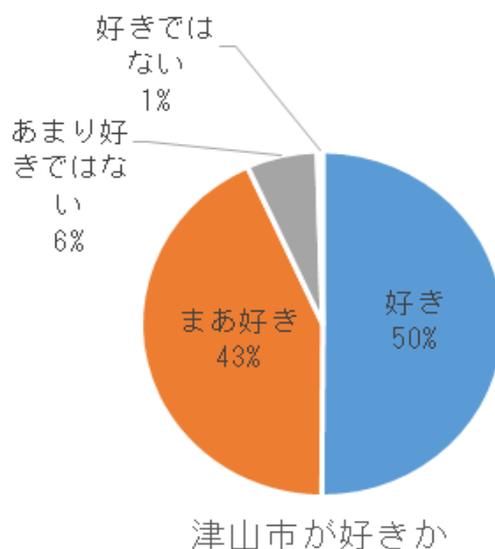
- ・子や孫にも住み続けてほしい意向（85.7%）



子や孫にも住み続けてほしいか

津山市が、好きですか？

・好き、まあ好きが、93.1%で、津山市への愛着は強い。

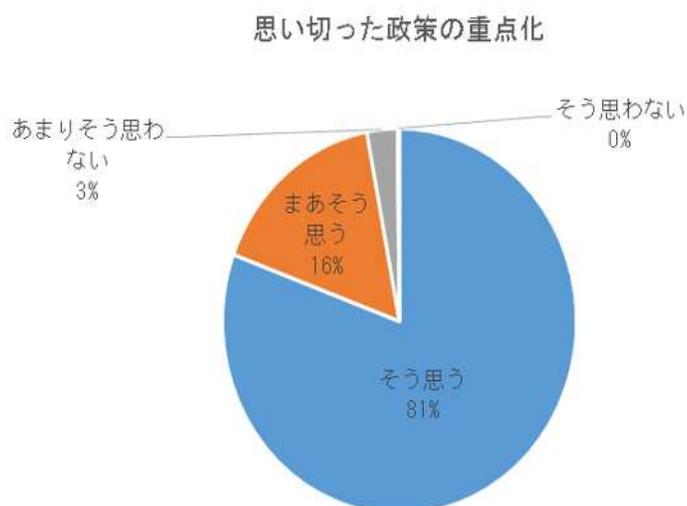


「好きな理由」としては、「生まれ育ったから」といった回答が多いが、その他、災害が少ない、自然が豊か、住みやすい、静かな環境、人情が厚い、歴史・文化がある、といったものが挙げられている。

今後、人口が減少していく津山市において、世代別の政策優先の順位について

- 1位 現役世代 56.5%
- 2位 子ども世代 29.9%
- 3位 高齢者世代 13.6%

人口減少を克服し、活力ある津山市にするために、思い切った政策を、重点的に行うことについては、97.0%が賛成している。



## 自由記述欄の取りまとめ結果

### 設問9

(1) 10年後の津山市は、どうあるべきですか？

1位	住みやすいまち	16.9%
2位	明るく、いきいき、生きがいの持てる活力あるまち	11.5%
3位	安全・安心なまち	6.8%
4位	自立自助、支え合い、助け合いのまち	6.1%
4位	若者が生き生き生活できるまち	6.1%
6位	高齢者が安心して住めるまち	4.7%
6位	自然と調和したまち	4.7%

(2) 10年後の津山市のあるべき姿を実現するために必要な施策

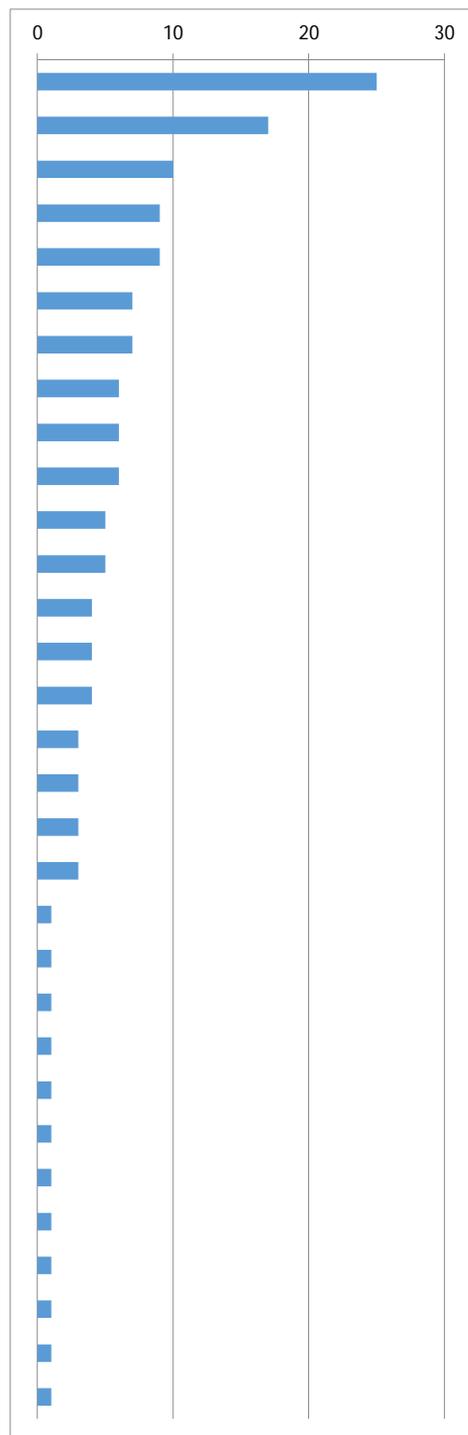
1位	若者の働く場確保と定住化施策	15.6%
2位	働く場の確保と働きやすい環境づくり	13.2%
3位	子育て支援策	6.7%
4位	観光振興施策	5.5%
4位	高齢者施策	5.5%
6位	人口減少対策	4.3%

設問10 第5次総合計画策定に向けての意見・提案

1位	総合計画策定に関するもの	45件
2位	雇用・定住に関するもの	31件
3位	教育・人づくりに関するもの	28件
4位	若者のための政策に関するもの	23件
5位	まちの姿に関するもの	21件
6位	市民参画に関するもの	19件
7位	行財政に関するもの	18件
8位	地域づくりに関するもの	10件
9位	魅力づくりに関するもの	8件

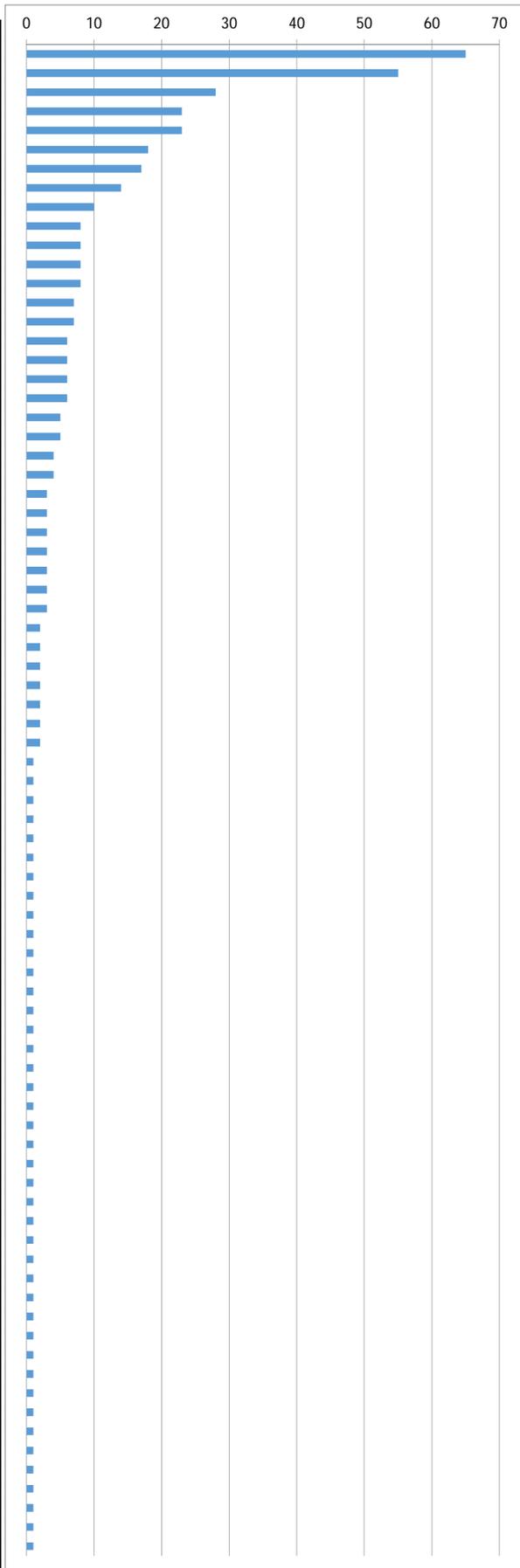
10年後の津山市は、どうあるべきですか？

番号	10年後に目指すまちの姿	意見の数	割合
1	住みやすいまち	25	16.9%
2	明るく、いきいき、生きがいの持てる活力あるまち	17	11.5%
3	安全・安心なまち	10	6.8%
4	自立自助、支え合い、助け合いのまち	9	6.1%
4	若者が生き生き生活できるまち	9	6.1%
6	高齢者が安心して住めるまち	7	4.7%
6	自然と調和したまち	7	4.7%
8	教育のまち	6	4.1%
8	コンパクトシティ	6	4.1%
8	魅力あるまち	6	4.1%
11	3世代が仲よく暮らせるまち	5	3.4%
11	歴史・文化を活かした観光都市	5	3.4%
13	子どもがたくさんいるまち	4	2.7%
13	地域の特色を活かしたまち	4	2.7%
13	福祉と医療のまち	4	2.7%
16	健康で笑いのあふれるまち	3	2.0%
16	生涯学習・スポーツのまち	3	2.0%
16	働きやすいまち	3	2.0%
16	県北の拠点都市	3	2.0%
20	観光と教育のまち	1	0.7%
20	教育と福祉のまち	1	0.7%
20	西の小京都	1	0.7%
20	子育てしやすいまち	1	0.7%
20	産業のまち	1	0.7%
20	城下町のよさを活かしたまち	1	0.7%
20	おいしい食のまち	1	0.7%
20	女性の生活しやすいまち	1	0.7%
20	田園都市	1	0.7%
20	文化のまち	1	0.7%
20	文化と産業のまち	1	0.7%
20	岡山市のペットタウン	1	0.7%
合計		148	100.0%



10年後の津山市のあるべき姿を実現するために必要な施策

番号	施策名	意見の数	割合
1	若者の働く場確保と定住化施策	65	15.6%
2	働く場の確保と働きやすい環境づくり	55	13.2%
3	子育て支援施策	28	6.7%
4	観光振興施策	23	5.5%
4	高齢者施策	23	5.5%
6	人口減少対策	18	4.3%
6	教育の充実強化と学力向上施策	17	4.1%
8	交通施策	14	3.3%
9	農林業振興施策	10	2.4%
10	リターン対策	8	1.9%
10	産業振興と地場企業の育成	8	1.9%
10	情報発信の強化	8	1.9%
10	地域づくりのための施策	8	1.9%
14	空き家対策	7	1.7%
14	子どもの人口増のための施策	7	1.7%
16	医療の充実	6	1.4%
16	津山城跡整備	6	1.4%
16	市民参画	6	1.4%
16	大学の充実と誘致	6	1.4%
20	津山駅前整備	5	1.2%
20	婚活支援施策	5	1.2%
22	女性の働きやすい住みやすい環境づくり	4	1.0%
22	歴史・文化・地域の魅力の継承	4	1.0%
24	映画館建設	3	0.7%
24	現状維持でよい	3	0.7%
24	人材育成と後継者育成	3	0.7%
24	地域の資源の活用	3	0.7%
24	施策の重点化	3	0.7%
24	特産品開発	3	0.7%
24	保育園の充実	3	0.7%
31	議員定数削減	2	0.5%
31	公民館の活用	2	0.5%
31	社会福祉の充実	2	0.5%
31	集落営農	2	0.5%
31	税の軽減	2	0.5%
31	地産地消	2	0.5%
31	資金の確保	2	0.5%
38	PTAの活性化	1	0.2%
38	遊ぶ場の確保	1	0.2%
38	インフラの整備	1	0.2%
38	河川美化と整備	1	0.2%
38	観光と農業の連携	1	0.2%
38	教員の交流	1	0.2%
38	国県との連携強化	1	0.2%
38	県南との交流	1	0.2%
38	広域連携	1	0.2%
38	公共施設の再利用	1	0.2%
38	交流人口増のための施策	1	0.2%
38	赤字の解消	1	0.2%
38	里山資本主義の確立	1	0.2%
38	産業と文化の振興	1	0.2%
38	市町村合併	1	0.2%
38	市内美化施策	1	0.2%
38	住居施策	1	0.2%
38	城西地区整備	1	0.2%
38	商店街の活性化	1	0.2%
38	城東地区整備	1	0.2%
38	スーパー誘致	1	0.2%
38	スポーツ振興施策	1	0.2%
38	生活環境の整備	1	0.2%
38	西部地区振興	1	0.2%
38	先進学術研修施設建設	1	0.2%
38	大胆な施策	1	0.2%
38	寺社の駐車場整備	1	0.2%
38	鳥獣害対策	1	0.2%
38	津山の地理的特徴の活用	1	0.2%
38	都市計画道路の見直し	1	0.2%
38	インフラ整備	1	0.2%
38	都市計画区域の再編	1	0.2%
38	年金問題の整理	1	0.2%
38	避難所の確保	1	0.2%
38	保・幼・小3までの一貫校建設	1	0.2%
38	まちの質の向上	1	0.2%
38	美作市・真庭市との連携	1	0.2%
38	無電柱化	1	0.2%
38	遊休地の活用	1	0.2%
38	幼児教育の充実	1	0.2%
38	幼稚園・保育園の統廃合	1	0.2%
38	幼稚園のこども園化	1	0.2%
	合計	418	100.0%



第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	総合計画策定に関するもの	趣旨
1	まだまだ旧来の都市構想であると思われる。	これまでにない計画を
2	津山は一方通行が多いため何か良い考えが必要となる。	これまでにない計画を
3	新しい観光物に税金を投入するより、今までの津山市鶴山公園等を活用すれば良いのではないのでしょうか？(津山市は桜の名所として大変有名です。活用価値ありとと思っています)	新しい津山市の特徴を作るべき
4	文化都市という名目ではとても素晴らしい事ですが、城東も、もっと思い切った整備を行って、広島県竹原の街のように思い切って道路を石だたみにしてイメージを変える。由布院の話が出てましたが、にぎやかな店がならぶ所には別に珍しい見る場所はなかったのに何故か人が集まって来るのは不思議に思います。	イメージチェンジ
5	30代、40代の委員を多く取り入れる。コンサルを入れることも必要。	思い切った施策を
6	市長中心に仕掛けをタナボタ式でなく、自分達でつくる。思い切った施策を！！	思い切った施策を
7	集中と選択、思い切った政策立案が必要。	思い切った施策を
8	津山市が生き残る為にはどこでもあるようなありふれた地方都市を目指すのではなく全国に岡山といえば倉敷でなく津山をイメージしてもらえようオンリーワンを目指してもらいたい。その為には行政・住民が血を流す覚悟が必要である。	思い切った施策を
9	近隣の市町村では、特色を活かした施策を打ち出している(林業・バイオマス等)	思い切った施策を
10	思い切った政策(目玉商品)	思い切った施策を
11	合併してよかったと思われる市運営をお願いし、希望のある計画を策定して下さい。	希望のある計画に
12	「個人を大切にすること」に重点をおいて下さい。	個人を大切にするまちに
13	世の中が変わっても、1度決まったことがくつがえらないということが、行政の大きな課題だと思います。必要によっては途中で踏みとどまる勇気が必要なことはないでしょう	施策を見直す勇気を持って
14	市の職員が多いため、役所の課、係で案を考えてほしい。	市の職員で考えてほしい
15	もっと何に特化した意見を出すのか、何を話すのか具体を示すべき	市のビジョンを
16	自然に津山に住みたくなる環境を作っていくために今、何をやるべきか、本気で考えて欲しい	住みたくなる環境づくり
17	住んでよかった街づくり	住んでよかったまちづくりを
18	先見性と、過程を織り成す計画としてください。	先見性をもった計画に
19	行政・政策ももちろんだが、見えなかったにもかかわらず、空から鶴の形を描いたらしいが、今後街づくりする時に全景も考えながらバランス良く行ってほしい。	全体のバランスのとれた計画に
20	地方創生でテレビ等で紹介されています、徳島のIT事業、隠岐の島の定住事業、私たちがアイデアを出し、一生懸命頑張ります。未来を見つめて行政も頑張ってください。	他都市の成功例を参考に
21	地方でないといけない事、地方の良さを見直し考える。	地方ならではの計画を
22	津山に住みたいと思える計画を作ってください。	津山に住みたいと思える計画に
23	ユニークな津山街づくり(アイデア)を時間をかけて、考えてください(市と市民が一つになっ	ユニークな施策を
24	色々な課題があるかとは思いますが、市民に分かりやすくコンパクトに図を使って、カラフルにして配布してほしい。	わかりやすい計画に
25	今日出た意見をよく検討して下さい。提案どおりに進めて下さい。	実効性のある計画を
26	行動が進むようお願い致します。	実効性のある計画を
27	本日出た意見を大切に目直ししていただきたいと思ひます。	実効性のある計画を
28	美術館は人が集まらず、無駄な投資だと思うのでもう少し効果のある施策で全国に発信できるものを期待します。	効果的な施策を
29	絵に描いた餅とならぬよう、実現可能であるが、夢のもてる計画としてほしい。	実効性のある計画に
30	大・中・小の計画があるがまずは小さいこと、実行できることから行い一つ一つ積み重ねて	できることから一つ一つ
31	できることを少しでも実現していただけたらと思ひます。	できることから一つ一つ
32	1つでも2つでも実行に移して頂きたい	ひとつひとつ実行を
33	人間のライフプラン(どう生きるか)を総合的に盛り込んだものにしていただきたい。	ライフプランに合った計画を
34	法律との関連もあるが、市民の利便性を考慮して、土・日曜、祝祭日の開庁を検討いただきたい(市民ニーズの高い部署だけでもご検討いただきたい)	市民の利便性向上を主眼に
35	総合計画の中に女性の視点を反映させてほしい(特に若い女性の意見をしっかり聞い	女性の視点を
36	「新市建設計画」におけるゾーニングの再構築を。 例：勝北地域を含む津山東部を、農業農林 カントリーゾーンとして位置づけて、特色ある将来像を。 勝北マルシェ 陶芸の里「雄杉焼」コース <六次産業化>と<伝統文化：黒媛陶棺との組み合わせ> 塩手池 声ヶ丸経由<那岐登山コース> <津川ダムコース> キャッチフレーズ“市民が主役！笑顔あふれるふるさとつやま”の継続！	新市建設計画ゾーニング再構築
37	早急に総合計画を策定して実行して欲しい。	スピード感を持って
38	行政はスポーツ・武道について先頭にたちスポーツ振興、武道振興に機関車の役割をはたすべきだ(市民広報にスポーツのページをもうける)	スポーツ振興の視点
39	スポーツにも力を入れてほしい。津山からのスポーツ選手の輩出、強化。	スポーツに力を
40	コンサルを入れることも必要。	専門家の意見を
41	阿波のいい所を発見してほしい。	地域資源の活用
42	阿波のいい所、自然や人柄、土地を活かしたまちづくり。	地域資源の活用
43	現在の状況になるのは、3、40年以前より推測できたが、有効な対策がとられて来なかった。5次10年の策定が応急対策だけにしない様、50年100年先を見据えた事で策定して	応急対策にならないように
44	文化都市	文化
45	人の生活の中で、文化・スポーツが大切であると直感しています。人と人が集まり、交わって自分を刺激して高め合い、共に生きていければいいと思います。	文化とスポーツに力を

第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	雇用・定住に関するもの	趣旨
1	「今の高齢者だけよくて、将来は、まっ暗」では、若い方は納得できないと思う。 福祉での雇用増の取り組みを	雇用の創出
2	津山は東京のようにはなれません。若い人たちが都会に出ていくのはとめられません。でも、他県からの移住で人口を増やす事はできます。昔から津山に住んでいる人は津山の良さがわからないが、他県の人にはそれがみえます。意見を求めてみてはどうでしょう	IJUターン施策
3	U・ターン、空き家のデータベース化 格安賃貸(住居確保)	IJUターン施策
4	日本人口の絶対数が足りない以上、世界へ目を向けて定住までして貰う制度も考えていかなければいけないのではないかと。群馬県大泉町も一つの例。	外国人移住者
5	雇用や若者の定住化政策	定住化施策
6	少子化防止には結婚できて、子育てが十分出来るだけの働き口を多数準備することが望	雇用の場の拡充
7	雇用の活性化が若者の定住につながる	雇用の場の拡充
8	津山市に住みたい環境の整備、雇用・福祉の環境づくり	働くの場の確保
9	働く場所がつけられる土壌が出来る対策を。雇用対策。	働くの場の確保
10	雇用の促進が1番だと思う。事業所の優遇・雇用先の確保。人口の確保と市民全体の力を上げる方向が良い。	働くの場の確保
11	雇用の充実	働くの場の確保
12	雇用確保のための産業を発展させる	働くの場の確保
13	外から出なく、今あるものを発掘して、雇用の場のつくる取り組みが必要。	働くの場の確保
14	雇用の場の確保が必要	働くの場の確保
15	多くの若者が定住できるよう、雇用の場の確保が最重要と考えます。	働くの場の確保
16	子どもたちが、津山市に居てくれるように、雇用の問題などを考えてほしい。	働くの場の確保
17	若い人が住みやすくなるように、仕事(働く場所)が必要	働くの場の確保
18	多様な働く所をつくる	働くの場の確保
19	もっと仕事の場を増やしてほしい	働くの場の確保
20	定住と働く場所の計画。河辺地区としては中核工業団地のトヨタの用地の活用を、又、Uターンの若者の働く場所。現在40才までは、まだ働く所があるが、40才過ぎると働く場所はほとんど無い	働くの場の確保
21	就職先の確保をする取り組みをしてほしい。	働くの場の確保
22	若い人の働く場所を作る。	若者の働く場の確保
23	起業家の支援等、雇用の場所、生活が若者に出来る市として、最優先で取り組んで頂きたい。又、継続した対応を願います。	若者の働く場の確保
24	若者が定住出来る為に職場を確保する 人口増	若者の働く場の確保
25	若い人が生活するには働く場所の確保が必要	若者の働く場の確保
26	子どもたちが働ける企業の誘致を促進してもらいたい(定住する為)	若者の働く場の確保
27	企業誘致に対して積極的に取り組み、企業に対しての税等の免除等で若い人の働き場所を確保する。	若者の働く場の確保
28	30代、40代にもっと頑張ってもらいたいと思います。	若者の働く場の確保
29	非正規雇用が拡大しても若人が伸びない。 非正規雇用が拡大すると就職率は上がっても、若人の夢にはつながらないと思う。	非正規雇用の正規化
30	津山市が開発した住宅団地を造成して、安く住宅を建築したい人に売却する 人口減にストップがかかる	住宅団地の造成
31	団地の造成を促進して、外からの移住を促進する。	住宅団地の造成

第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	教育・人づくりに関するもの	趣旨
1	「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」その様な考え、行動のできる人間が一人でも多くいる津山市であってほしい。	思いやりのある人づくり
2	人づくりの実践ができ、いきいきした津山の実現を目ざしてもらいたい。	人づくりの視点
3	在宅医療の担い手、人を育てる。	人材育成
4	智頭の“森の幼稚園”のように、市内から送迎バスを出すなどして園児を通園できるようにして再園させてほしい。	阿波幼稚園の再園
5	保育園も統合され、中学校も1校、小学校も3校を統合してはどうか。	保育園・小中学校の統廃合
6	保育園を増やし、定員内でゆとりのある保育を。	保育園の増園
7	保育環境と職員の賃金の改善を	保育園の待遇改善
8	保育園、幼児教育から連携し、10年英語授業と中高一貫校	幼少期からの英語教育
9	人材育成を集中してほしい。大勢を集めての講演会やバスに乗って半分飲み会旅行は不要。何か「やりたい！」という若手が日本全国動ける経費	人材育成に集中を
10	各界の「紳士」なりリーダー育成を。	人づくり
11	子どもの学力向上	学力向上
12	学力向上においては1クラス30人に4担当の決まりを崩し、子どもの状態に応じたものを、企業見学も積極的に行うべき	学力向上
13	学校教育の充実。1学級20人できめこまかい指導、学力アップ	学校教育の充実
14	冷房の設置を各校の教室へ。	学校に冷房設備を
15	小・中・高校生の教育にも現場職員にだけ、まかせるのではなく、市民が教育推進に向け目を向け、意見が言える、風通しのよい教育現場であってほしい。中・高一貫校ができたが、大事に育ててほしい。県立であっても、希望がもてる最初の一步であり、最初の一校だと思っています。津山市教育推進のためにどうかよろしく願います。	教育の向上
16	教育(小・中学校)レベルの向上する施策が必要。教育者の充実を図られ	教育の向上
17	教育に力を入れてるべき。	教育の向上
18	教育の充実をお願いしたい。	教育の充実
19	教育の再生により、人間らしい(本来の日本人の精神性を備えた人)を育	教育の充実
20	人口減少社会に対応するためには、学校教育の場などでの正しい性教育の実施が必要	正しい性教育の実施
21	子どものころより、地域の実情や課題を知り、自分たちのものとするために小学校の学習に取り入れていってはどうでしょうか。	地域について子どものころからの教育強化
22	人づくりに注力して本当に良い成人を目標とした教育の取り組み。	道徳の重視を
23	ひきこもり問題を中心に考えることが大切。	引きこもり問題を中心に
24	小・中・高の教育の場で、子どもたちに、地元で働くことの魅力を学ぶ場(考える場)を継続的に創れないでしょうか。	幼少期からの地元教育
25	小学校のうちに教育をしっかりやって行きたい。スポーツにも力を入れてほしい。	幼少期の教育の強化
26	子どもより親の教育を	子どもより親の教育を
27	家庭が温かい場所である必要があると思います。温かく、楽しい家庭であれば、子ども時代が楽しく過ごせ、地元愛も生まれます。	家庭教育の充実
28	教育において文化水準の向上を図る。	教育・文化水準向上

第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	若者のための政策に関するもの	趣旨
1	各界の意見を取り入れることは大切である。30代・40代の人々も将来のビジョンを持っていると思うし、津山の将来像を考えるように仕向けなければならない。パブリックコメントやメールによる意見聴取も取り入れて、若い人の意見を出や	30代40代の意見反映を
2	学生等にも意見を聞いた方が良いのでは。	学生の意見を聴くべき
3	住み良い市に計画し若い者が住み良く希望にもえて生活出来る様願っています	若者が希望を持てるまち
4	若い夫婦が経済的に子育てしやすい環境づくり。	若者が子育てしやすい環境づくり
5	若者が集える拠点作り等(研修、研究の拠点を作る)例えばITなど	若者が集える拠点づくりを
6	若者が夢を持って生活できる環境になれば、定住化が確保できるのでは・・・。	若者が夢を持てるまち
7	若人の夢につながる様な社会に。	若者が夢を持てるまち
8	市の若い人の意見を十分配慮すべき(5年、10年後の策定の責任を持たず。)	若者の意見と聴く
9	30代、40代の委員を多く取り入れる。	若者の意見を聴く
10	夢と魅力のある津山市に若者の声を取り入れる。	若者の意見を聴く
11	もっと若いものと話し合ってください。	若者の意見を聴く
12	今日の会は老人の人が多いがもっと若い40才～以上の人に来て欲しい。	若者の意見を聴く
13	若い人の意見も聞く事も必要なことではないでしょうか。	若者の意見を聴く
14	若者のアイデアをしっかりと取り入れること。	若者の意見を聴く
15	若者が定住出来、子育てしやすい環境をつくる。	若者の住める住宅整備
16	若者が住める町(衣・食・住)外に出ていかない様にする事。子どもを外に出ない様に教育する(津山の町が良い町のように)	若者の定住化
17	若者が定住するための施策の推進。	若者の定住化施策を
18	仕事(働く場所、若い人が住みやすくなるように	若者の定住化を
19	多くの若者が定住できるよう、雇用の場の確保が最重要と考えます。	若者の定住策
20	若者が定住出来、子育てしやすい環境をつくる。若者のアイデアをしっかりと取り入れること。	若者の定住策
21	高齢者の要支援者に対しての福祉、保護を重点に、若者が住みやすい、子育てがしやすい都市を目指す。	若者は住みやすいまち
22	子育て世代の住宅提供など	若者への住宅提供
23	地域活性化の為に若者優遇する政策を	若者優遇施策

第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	まちの姿に関するもの	趣旨
1	老人から子供まで安心して暮らせる街に	3世代が安心して暮らせるまちを
2	健康で安心して暮らせるまちづくり	安全安心のまちづくりを
3	安全安心の街づくり。ハードではなく、ソフト 職場から災害時出やすい状況をつくる。	安全安心のまちづくりを
4	老人から子どもまで安心して暮らせる街に	安全安心のまちづくりを
5	通学路の交通安全、及び防犯対策(防犯カメラの設置)など安全・安心のまち	安全安心のまちづくりを
6	安心して出産(若者の人口増)、教育もできる津山への政策	安心して子育てできるまちに
7	子育て支援に力を入れてほしい。現金も必要とは思いますが、それよりも夫婦が安心して働ける環境を作してほしい。 具体的には、保育園だけでなく、病気等になっても軽度であれば預けられる(安心して)所(中心部西に2ヵ所、病院併設の施設がある)学童保育と言うか、放課後児童クラブをしっかりとしたものにしてほしい。	安心して働ける環境づくり
8	親が安心して仕事ができる環境の充実をしていかないといけない。	親が安心して仕事ができる環境
9	現在、自分は幼児2人の子育てをしながら、仕事もし、大家族で生活しています。両親・祖父母の老後(今後)の事も考えないといけないし、子ども達の将来の事も考えたり、また今現在の子育てサービスも利用させて頂いたり、またもう少し良くなって欲しいと思う事等、様々思いはありますが、自分自身が「幸せだな」と感じていられる事が大切です。より良い津山市になりますように。	幸せだと思えるまちに
10	年齢、性別関係なく、皆が集う事のできる市になれば良いと思っています。思いやりのある人達であふれる、もう一度津山に行きたい、もしくは住みたいと思える街づくりをしてほしいです。	住みたいまちに
11	津山市に住みたい環境の整備、雇用・福祉の環境づくり	住みたいまちに
12	高齢者を助け合う市民の町づくりを市民全体に広がるような計画を策定していただきたい。	助け合いのまちづくり
13	人口減はまめがれない。悲観するのではなく、人を大切にする(育てる)を津山市政に望みます。	人を大切に育てるまち
14	年齢、性別関係なく、皆が集う事のできる市になれば良いと思っています。思いやりのある人達であふれる、もう一度津山に行きたい、もしくは住みたいと思える街づくりをしてほしいです。	もう一度行きたいまちに
15	県北は安らぎの地でありたい。	安らげるまち
16	豊かなくらしのできる津山にしてほしい。	豊かなくらしのできるまち
17	今後のインフラ整備をどんな範囲で重点的にするか?たとえば中心部へ生活の拠点をまとめて「こちゃん」とした街にするとか?道路・上水道・下水道を今の調子で周辺に延ばして良いのか?	コンパクトシティ化
18	県からの補助金に頼るだけではなく、市としての意気込み = 自立心のあふれる市政でありたい。	自立心のあふれる市政
19	公共に頼られるだけの施策はこれから先は実現不可能と思います。そのためにも市民一人一人が「自分がやらなきゃ!」と思える気持ちになれるように、いかに市民として市と一体化しているんなことに取り組んでいく気にもっていけるかが大切なことだと感じています。	自立自助のまちづくり
20	人権尊重の意識を広げ、民主的で明るい津山の街をつくることは、大変重要である。街づくりは人づくりと言えます。その人づくりに、人権意識の形成は必要不可欠とである。	人権尊重のまち
21	教育都市津山(子どもは津山で学ばせよう)という都市。	教育都市

第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	市民参画に関するもの	趣旨
1	今日いろいろと意見が出ましたが、ひとつずつ実現にむけてほしい。	市民参画による計画策定を
2	計画を公表し、市との市民と情報交換を多く持つ。	市民参画による計画策定を
3	皆さんのお知恵を聞いて、計画に盛り込んでください。	市民参画による計画策定を
4	市民の意見を反映できる計画にしてほしいと思います。	市民の意見反映
5	市長中心に仕掛けをタナボタ式でなく、自分達でつくる。思い切った施	市民の市政参画
6	住民1人1人の考えを改めて、皆んなで津山市の発展を考えていく。	市民の市政参画
7	地域意見を取り入れた計画づくりを。	市民の市政参画
8	市民目線をお願いします。	市民の市政参画
9	私たちもアイデアを出し、一生懸命頑張ります。未来を見つめて行政も頑張ってください。	市民の市政参画
10	市民、皆、津山の現状を良しとはしていない。そのためには市民の意識を高める必要。	市民への意識喚起
11	地元の人自身が、計画を進めて行くよう指導する必要あり。皆様は自分の事ように思っていない。	市民への意識喚起
12	市民の共有できる目標をたて、一市民もその中に取り込み、具体的な施策を進めていってほしい。	市民への意識喚起
13	市民力を活かす政策で進めていただきたい。	市民力を活かす政策
14	地域住民の意見と、客観的な視点をしっかりとふまえた、計画となるよう、お願いしたい。	地域住民の意見と外部の視点を
15	西苦田意見書はよくまとまっているので参考としてほしい。	市民参画の手法で
16	地域が大きすぎるので、出来れば町内単位での意見も必要ではない	市民参画の手法で
17	地区別懇談会のやり方について一考が必要、総合計画策定メンバーはどうなっているのか、また地元のメンバーが多いのか？	市民参画の手法で
18	外部識者の意見を聞く。	外部の意見を聴く
19	津山は交通マナー、自転車のマナー等がやや低いと思います。魅力化発信には良好なマナーは欠かせないと思いますので教育現場でもしっかりと教えて頂きたい。	マナーの向上

第5次総合計画策定に向けての意見・提案

番号	行財政に関するもの	趣旨
1	議員報酬の見直しが必要。	議会改革
2	市議会開催日を土日にするとか、市議会時間を夜間にしてほしい。	議会改革
3	行政の合理化の検討	行政の合理化・人員削減
4	職員の数、給与の見直しをしては	行政の合理化・人員削減
5	職員の資質向上	市政の改善・職員の資質向上
6	組織のスリム化等に尽力して頂きたい。	組織のスリム化
7	市役所の部署の改革も合わせて、やってもらいたい(部署の統合等)	市役所の改革
8	職員の意識改革を	職員の意識改革を
9	資金面、財政面から見た計画を考えてほしい。次世代に債務を残さない為	緊縮財政を
10	財政面が心配	緊縮財政を
11	ふるさと納税等で高齢者サービスを受けられる等、自分の親にメリットがあるならふるさと納税する。	ふるさと納税強化
12	民間財源をもっと活用すべきではないか。日本財団、競輪等の補助金の活	民間財源の活用
13	箱物はライフラインに関係するような、最低限の投資にすべき。	新たな箱物に力を入れないように
14	人口減少に伴い、箱物等を造るのではなく、道路等箱物等の維持管理に努めるべきである。	あるものの活用を
15	美術館構想があるようですが、目玉商品のない美術館で採算がとれるかどうか。箱物建築になって市の重荷にならないように考えてください。	美術館は必要ない
16	人口も減少していくので市美術館は必要ない。	美術館は必要ない
17	総合計画については、もう二度とアルネ失敗のような箱もの造るような計画はしないでほしい。	アルネの失敗を繰り返さないで
18	1～4次計画の総括を行い、今後の百年を考えた計画を行ってほしい。	過去の計画の総括を

番号	地域づくりに関するもの	趣旨
1	地域活性化は大いに必要。	地域の活性化を
2	空家が増えてきています。何かよい利用法があればと思います。高齢者の集まれる場所が必要。	地域の拠点づくり
3	活力のある、行政を考えて、市民に振り分ける。	小さな拠点づくり
4	国も地方創生と言われた。市も地域創生で地域消滅とにならないようにしていただきたい。国が進める「小さな拠点づくり」を進め 地方の活性化につ	小さな拠点づくり
5	昔ながらの近所付きあいのできる地域づくり	近所付き合いのできる地域づくり
6	限界集落が増える中、車等に乘れなくても食料の調達ができる仕組み作りを考案して頂きたい。	限界集落の食料調達システムを
7	住宅は津山市中心部に、そして「あば」に田畑の管理耕作に山村の経営に行くような生活様式を考えてはどうか。	山村地域の地域づくり
8	地域が好きになる環境づくり	地域コミュニティづくり
9	すべてに魅力ある街にする事によって、市民1人1人が明るく、支えあいの地域づくりをすべき。	地域づくりをすべき
10	老人福祉と地域の関わり方について、考える必要がある。	地域での支え合いを

番号	魅力づくりに関するもの	趣旨
1	偉人・先人の生家・菩提寺が有ると思いますが、そこが荒れていると聞いた事がありますので、その様な観光資源の美化もリピーターの発掘になり何度も津山を訪れる事によって、それが定住にもなると思います。	埋もれた資源の活用
2	新しい計画、大きな箱物等はやめて、人口減、財政窮乏はやむを得ないので、ここで我慢して、現在のインフラ等生活が持続するように、橋・道・施設等が一日でも長持ちするよう、補強する計画を立てることが必要である。地道な計画としてもらいたい。 加茂川改良区の合理化事業も63年に完成し、30年を経過しており、今年来年で3,001万円の調査が市・県・国で行われています。 その後の安全管理の計画を総合計画に記載していただきたい。	埋もれた資源の活用
3	魅力あるまちづくりを目指して下さい	津山市の魅力づくりが必要
4	津山独自の魅力を、 の町津山とアピールする。	津山独自の魅力づくり
5	人口の増加より津山の価値を上げること。	津山の価値を上げる
6	都会にはない“津山ならでは！！”の街作り	津山の独自性の発揮
7	総合計画は、津山の柱を何にするか、目に見えるものを仕上げる。	津山の柱を何にするか明確に
8	津山市の魅力の向上(文化・産業・生活の利便性など)	魅力の向上

## グループインタビュー調査結果

### 調査の概要

調査期間：平成27年3月14日（土） 15日（日）

調査対象：1）20～40代女性（6名）

2）50代女性（8名）

3）60代以上男女（男性5名、女性3名、計8名）

住民基本台帳より無作為抽出した20代以上の1000名に対し、参加を依頼。上記の3グループを設定した。

調査目的：地区別および分野別懇談会で出された市民の意見等を踏まえ、課題に関する情報収集や、さらなる深掘りを行うことで、ニーズを把握し、重点的・戦略的に取り組むべき施策の方向性（コンセプト）を見出す。

### 1）20～40代女性グループ（主な調査課題：子育てしやすさ・働きやすさ）

#### 抽出されたニーズ

○働きやすい預け先	・学童保育の定員が足りず、入れない ・土日出勤や急な残業の時にいつも困る ・家事の中でも、食事の準備は負担が大きい ・預けられないと働けない など
○安心して子どもを送り出せる場所	・公園が少なく、安全な遊び場がない ・成長段階に応じたそれぞれの場所が必要 ・保育園や学童保育も、規模や質に不安を感じるところは避けたい など
○仕事を選びたい	・サービス業など労働条件の厳しい求人しかない ・長時間拘束されると子育てと両立できない ・人手不足でスキルアップできない など
○子どもには自立できる力・コミュニケーション能力を付けさせたい	・どこで誰と働くか分からないので、外の世界や価値観の違う人とコミュニケーションできる力 ・生活面も経済面も一人で生きていける力 ・仕事も今とは全く違うはずなので、与えられたものではなく、課題を見つけて解決できる力 ・自分で自分を守る力がなければ危険 など

## 解決のための方策や提案

<p><b>子育てと両立しやすい働き方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9～15時の労働時間が希望</li> <li>・ 短時間でも働きたい</li> <li>・ 毎日でなくてもいい</li> <li>・ 急な休みが取りやすいといい</li> <li>・ 家でも仕事ができたら</li> <li>・ 上司や周囲の理解が必要</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p><b>公的な子どもの居場所</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園や児童館は安心</li> <li>・ 一時保育はよく使う</li> <li>・ よく知らないサービスは不安なので、使わない</li> <li>・ ファミサポは、子どもが知らない場所に預けるのは心配がある</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p><b>地域の顔の見える関係や家族の支えがある土地柄の活用</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近所の人に随分助けてもらっている</li> <li>・ 市外の進学先で結婚・出産していたら、子育ての孤独に耐えられなかった</li> <li>・ ファミサポは、信頼関係を築くのが面倒</li> <li>・ 子育てをしていると、隣が誰か分からないのは怖いことだ</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p>○複合的な施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家の近くに、子どもを預けたり時間を過ごせたり、自分は働ける場所があればいい</li> <li>・ イオンのような全部ある施設がほしい</li> <li>・ 宿題や勉強もさせたい</li> <li>・ 学力向上のため、塾や習い事もできれば</li> <li>・ 昼ご飯兼食育などあるといい</li> <li>・ 行きやすい便利な場所に、そこに行けば何でもあるとうれしい</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

\* は、発言回数・発言者が多かった / 同意・賛意を表する者が多かった / 話が盛り上がり、展開した もの

## 2) 50代女性グループ (主な調査課題: まちの魅力づくり)

### 抽出されたニーズ

○まちに楽しさがほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者がいたい環境になっていない</li> <li>・昔は憧れの都会だったのに、すっかり寂れてしまった</li> <li>・出かけたり楽しんだりできる場所がない</li> <li>・夜もお店や施設が閉まるのが早い など</li> </ul>
○年をとっても働きたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働ける限りは働きたい</li> <li>・財政が厳しい市であり、豊かな市とは違うので、皆が働くべき</li> <li>・今後も人の役に立ちたい など</li> </ul>
○もっとよいまちにするために自ら関わりたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市政のために、言いたいことや思っていることがたくさんある</li> <li>・言いっ放しではなく、どう反映されたか、反応が知りたい</li> <li>・小さくてもできることをしたい など</li> </ul>

### 解決のための方策や提案

セールスポイントづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何か「ナンバーワン」と言えるものを</li> <li>・盛り上げようと思えるものが必要</li> <li>・これと言って良いところも悪いところもないのでは特徴がない など</li> </ul>
地域の人や資源をつなげて活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手が余っている人と必要なところをネットなどでつなぐしくみがあればいい</li> <li>・田舎ならではの信頼関係の活用</li> <li>・今後、若い人への声かけや子どもの世話ができれば楽しい など</li> </ul>
○あるものの掘り起こしと情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいものがあるのにPRが足りない</li> <li>・新たに作るとお金がかかるので、既にあるものを活用すべき</li> <li>・中にいると価値に気付かないので、外の目で見てほしい など</li> </ul>

\* は、発言回数・発言者が多かった / 同意・賛意を表する者が多かった / 話が盛り上がり、展開した もの

### 3) 60代以上男女グループ (主な調査課題: 高齢者にとっての暮らしやすさ)

#### 抽出されたニーズ

\* 移動や交通の問題に話題が集中した

○移動の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに行くにも車がないと不便なまちだ</li> <li>・バスの便数やルート、乗り換えが使いづらい</li> <li>・買い物や通院の足は、日常的に必要な など</li> </ul>
○年をとっても自信を持って、楽しく暮らしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の中で家事をするという役割を持っていることが、生きがいになっている</li> <li>・注文でなく現物を見て買い物をするのが楽しい</li> <li>・お店の人と話すのは喜び など</li> </ul>
○将来への安心を得たい (不安の払拭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70を超すと、運転に自信を失ってきた</li> <li>・運転できなくなってもここに住み続けられるか、不安がある</li> <li>・いつまで運転できるか心配 など</li> </ul>

#### 解決のための方策や提案

公共交通などの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんごバスの便数やルートを、住民の声を聞いて改善すべき</li> <li>・タクシー会社と地域で相談してはどうか</li> <li>・地域を指定してモデルを作ってみては など</li> </ul>
○民間サービスによる解決への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配食やネットスーパーの展開を期待している</li> <li>・民間活力をもっと導入すべきだ</li> <li>・民間のサービスだと、儲からないので行われぬ地域がある など</li> </ul>
地域の助け合いによる解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り合わせや注文を預かって買い出ししている</li> <li>・阿波地区のような取組を全市で実施しては</li> <li>・信頼関係があるから助け合いができるのでは</li> <li>・活動への参加が地域への愛着を生み、定着のきっかけになると思う など</li> </ul>
○田舎の良さを活かした規制緩和や 独自ルールの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助け合いが法律違反にならないようにする</li> <li>・路上駐車や速度制限も、実状に合わせた津山独自の規制でよいのではないかなど</li> </ul>
○市民への情報共有・伝達の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく制度があっても、知られていないために使われていないことがある など</li> </ul>

\* は、発言回数・発言者が多かった/同意・賛意を表する者が多かった/話が盛り上がり、展開した もの

## 職員ワークショップの実施結果

### 1 ワークショップの概要

総合計画策定にあたり市民の皆さんの意見、提言をお聞きするために、懇談会、アンケート調査等を実施した。

その中で、特に関心度の高かった「子育て」「雇用」「人づくり」について、若手職員のワークショップを実施し、現状や課題を整理し、それぞれの立場から率直な意見交換を行う中で、取り組むべき施策や事業の方向性を論議した。

### 2 ワークショップのテーマと実施日

テーマ	職員数	実施日	時間
子どもを産み育てやすい 環境づくり	7名	平成27年2月17日(火)	13:15~15:15
		平成27年2月26日(木)	10:00~12:00
		平成27年3月26日(木)	10:00~12:00
働く場をつくる取り組みについて	7名	平成27年2月18日(水)	10:00~12:00
		平成27年2月26日(木)	13:15~15:15
次代の人づくりについて	7名	平成27年2月18日(水)	13:15~15:15
		平成27年2月27日(金)	10:00~12:00

### 3 協議結果内容

#### (1)「子育て班」

子どもを産んでもらうためには、出産・育児の支援強化は必要であるが、若者に津山市に住んでもらい、結婚して、家庭をもってもらう必要がある。若者の働く場を確保し、積極的に出会いを求め、婚活活動をしてもらい、結婚するという流れをとらえ、場面ごとに、効果的な施策を展開する必要がある。

#### (2)「働く場班」

都会と張り合うのではなく、津山市にしかない就職先を作り出すことが必要である。また、企業間の連携や地域内で物と金をまわす仕組みづくりなど、地域内でも協力体制づくりと、新しいしくみづくりが必要である。

#### (3)「人づくり班」

津山市の将来を担う人材を育成するためには、まずは、津山市に優秀な人材に住んでもらわないといけない。そのためには、新しい価値観を提示し、将来的な可能性を感じてもらい、転入者の増加と転出者の減少に取り組む必要がある。(子育て支援策では、津山市独自のインセンティブの構築、また、空き家を有効に活用し、住む場所を提供する。)

# 転出入者アンケート調査結果報告

～津山“またきんちやい”“ようきんちゃった”アンケート調査～

平成27年6月

津山市総合企画部政策調整室

## 1 調査目的

津山市の転出入者の属性や移動の理由などについて、その実態を把握し、第5次総合計画策定等の基礎資料とするために実施した。

## 2 調査内容の背景と設問設定理由

転出の要因としては、「雇用」の問題、「進学」の問題が影響しているのではないかと、いう仮説のもと、若年齢層の転出の割合が高くなることを予想した。また、逆に、転入の要因としては、津山市のよさである「生活環境面のよさ」「治安のよさ」「自然環境」が影響し、高年齢層の割合が高くなることを予想し、設問を設定した。

また、職業、職種、異動先について把握するため、転出入前後でどう変化するののかも調査項目に加えた。

さらに、転出者に対しては、「津山市で生活していて感じたこと」、また、「もう一度住みたいと思うか」についてもあわせて質問し、津山市のよさと移住意向との結びつきを検証した。

## 3 調査対象及び方法

津山市役所及び支所の窓口で住民票の異動（転出入）手続きをした方に、アンケート調査への協力を依頼し、同意いただいた方に、その場で調査票に記入してもらった。

## 4 調査期間 平成27年1月14日（水）～平成27年4月17日（金）

## 5 回答者数と調査票回収率

回答者数を、住民票の異動（転出入）者数で除して、回収率を算出した。

区分	性別	人数	割合	回答者数	割合	回答率
転出者	男	889	53.6%	311	54.0%	35.0%
	女	771	46.4%	265	46.0%	34.4%
小計		1,660		576		34.7%
転入者	男	758	53.5%	240	57.0%	31.7%
	女	660	46.5%	181	43.0%	27.4%
小計		1,418		421		29.7%
合計		3,078		997		32.4%

## ．男女別と年代

性別では、転出入者ともに、男性の割合が、やや高い。

転出者の性別 (回答数576)

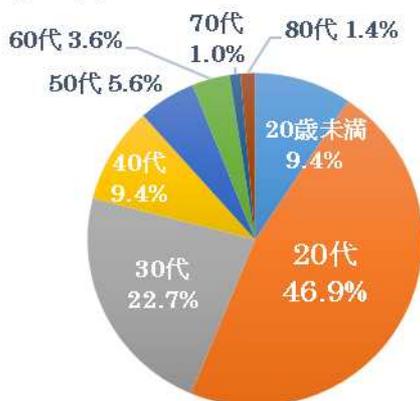


転入者の性別 (回答数421)

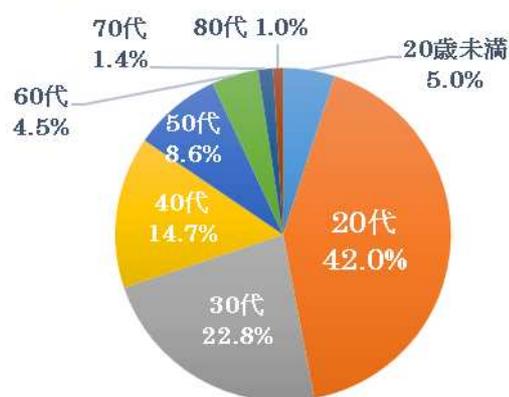


年代別では、転出入者ともに、20代が40%超、30代が20%超で、20・30代が約70%を占めている。

転出者の年代 (回答数576)



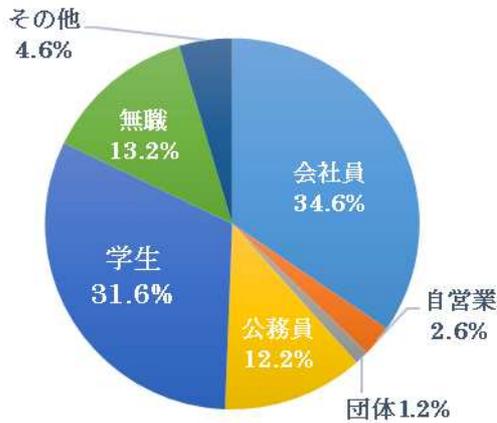
転入者の年代 (回答数421)



## - 1 . 職業の変化 ( 転出者 )

- 転出前から転出後で、会社員の割合が増加し、学生の割合が低下している。
- 学生の転出理由は、約 60 % が就職で、約 20 % が進学である。

転出前の職業 ( 回答数567 )



転出後の職業 ( 回答数542 )

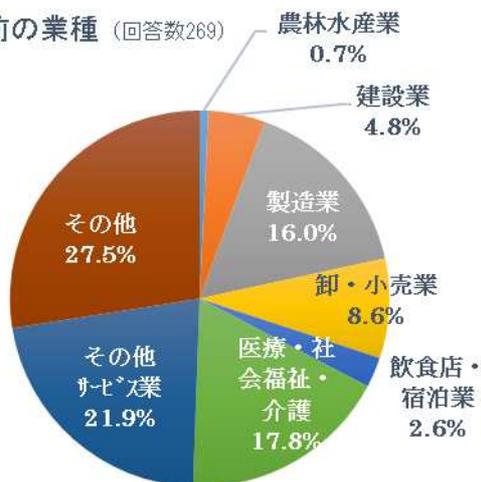


転出前と転出後で、職種に大きな変化はみられない。

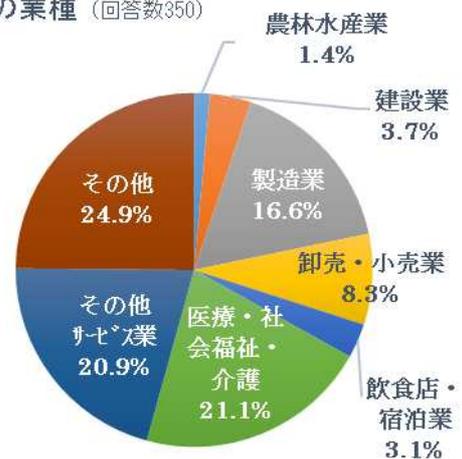
転出前と転出後の業種を比較すると、農林水産業、製造業、飲食店・宿泊業、医療・社会福祉・介護の割合が上がっている。

転出前に学生と回答した方の、転出後の職業は、会社員・公務員が、約 75 % である。

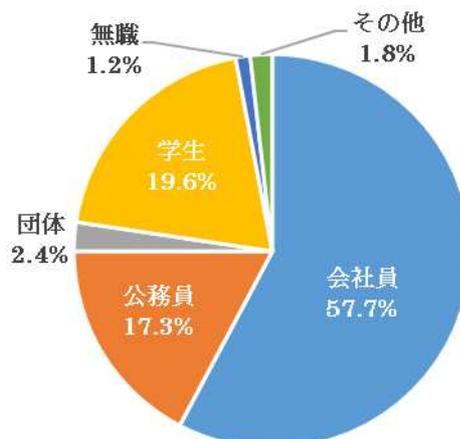
転出前の業種 ( 回答数269 )



転出後の業種 ( 回答数350 )



転出前に学生だった人の転出後の職業 ( 回答数168 )



## - 2 . 職業の変化（転入者）

- 転入前から転入後で、職業に大きな変化はみられない。
- 学生の転入理由は、約 50 % が就職で、約 35 % が進学である。

転入前の職業（回答数419）



転入後の職業（回答数390）

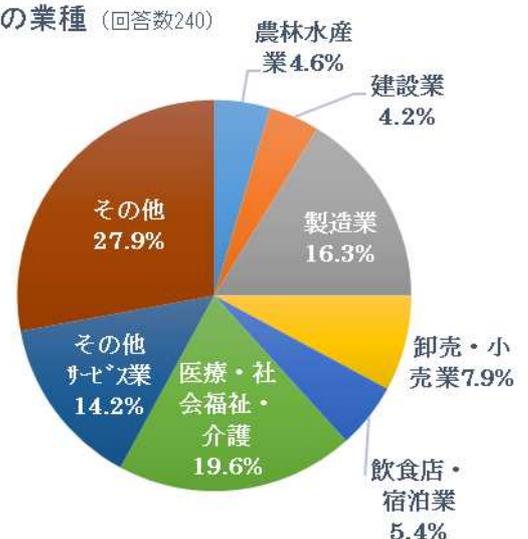


転入前と転入後の業種を比較すると、農林水産業、製造業、医療・社会福祉・介護の割合が上がっている。

転入前の業種（回答数234）

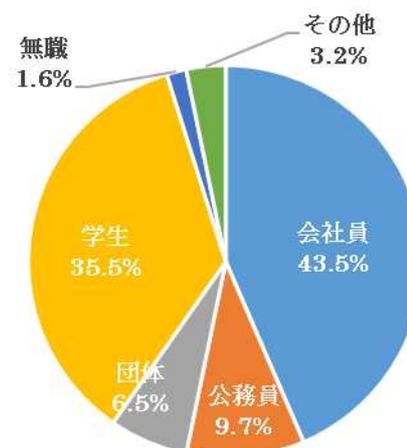


転入後の業種（回答数240）



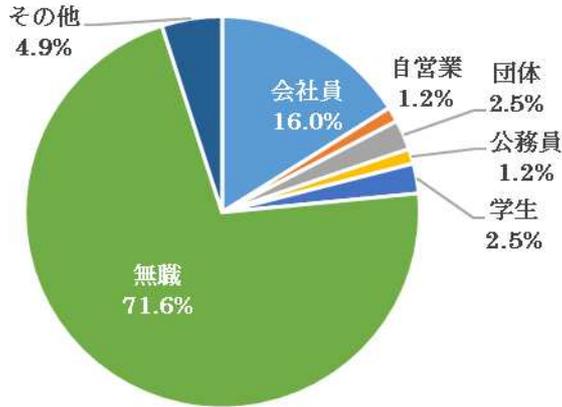
転入前に学生と回答した方の、転入後の職業は、会社員・公務員が、50 % 超である。進学の割合が、35.5 % を占めている。

転入前に学生だった人の転入後の職業(回答数62)

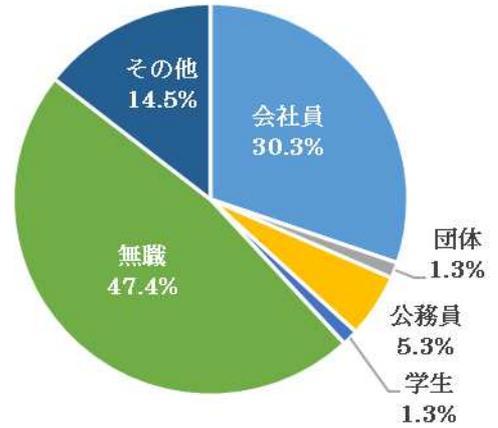


- 転出後無職の方の約30%の方が、転出前有職と回答している。  
 転入後無職の方の約40%の方が、転入前有職と回答している。

転出後無職の人の転出前の職業(回答数81)



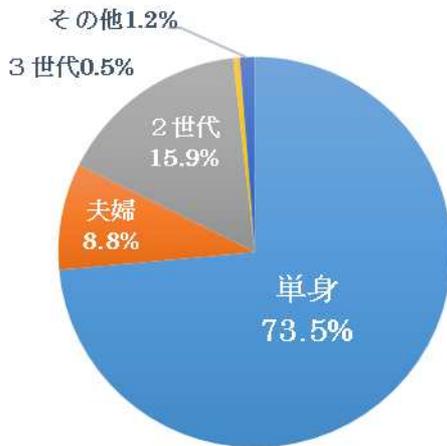
転入後無職の人の転入前の職業(回答数76)



## 世帯構成

- 転出入ともに、約70%が単身世帯である。

転出する世帯構成(回答数567)

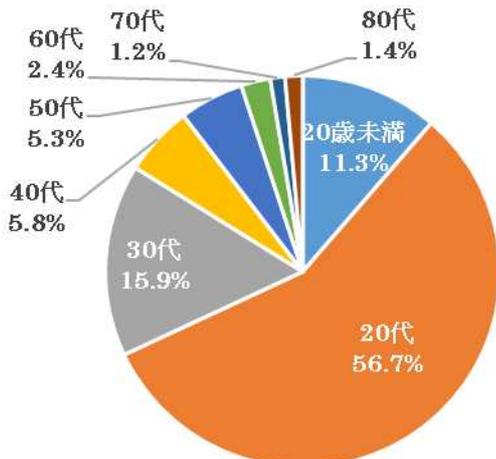


転入する世帯構成(回答数415)

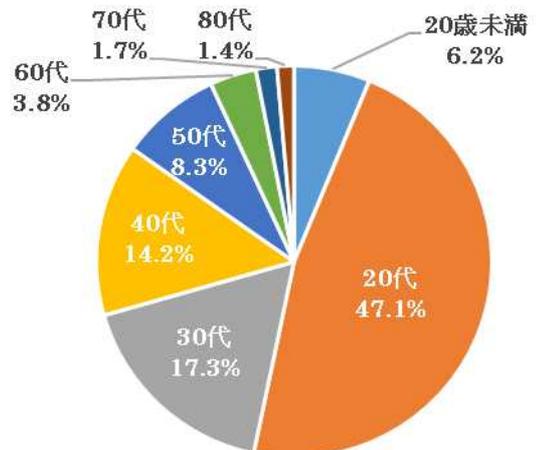


転出入ともに、単身世帯の年代は、20代~30代の占める割合が高い。

転出する単身世帯の年代(回答数416)

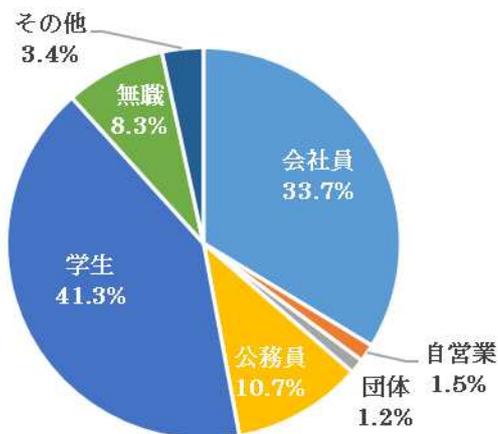


転入する単身世帯の年代(回答数289)



単身世帯の転出前の職業の40%は、学生である。  
 単身世帯の転入前の職業の40%は、会社員である。

単身世帯の転出前の職業 (回答数412)

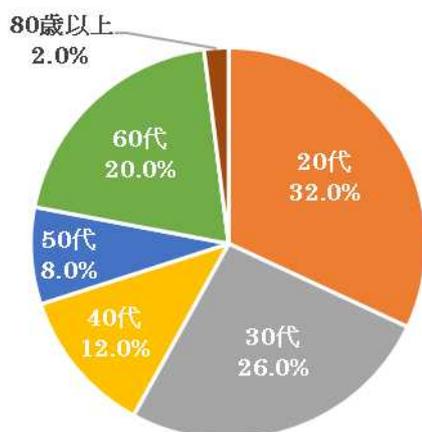


単身世帯の転入前の職業 (回答数287)

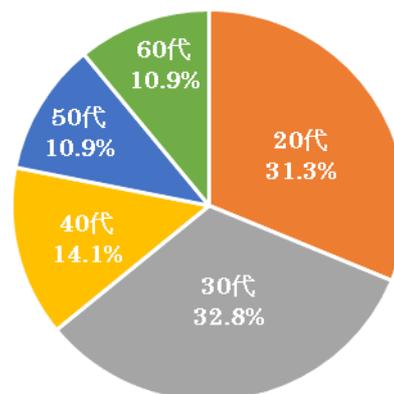


転出と転入する夫婦世帯の年代を比較すると、60代、80歳以上の割合は、転出の方が高い。

転出する夫婦世帯の年代 (回答数50)



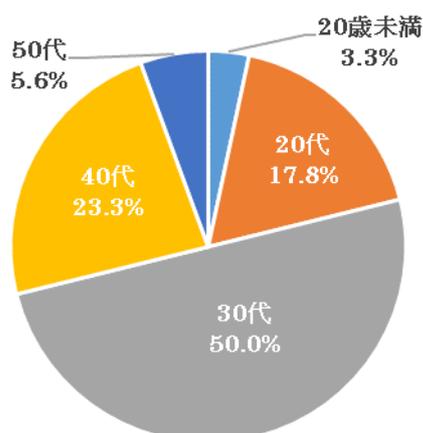
転入する夫婦世帯の年代 (回答数64)



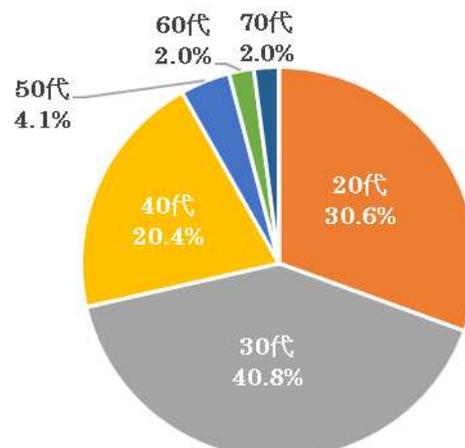
転出と転入する2世代世帯を比較すると、20代は、転入の方が高い。

転出と転入する2世代世帯を比較すると、30代は、転出の方が高い。

転出する2世代世帯の年代 (回答数90)



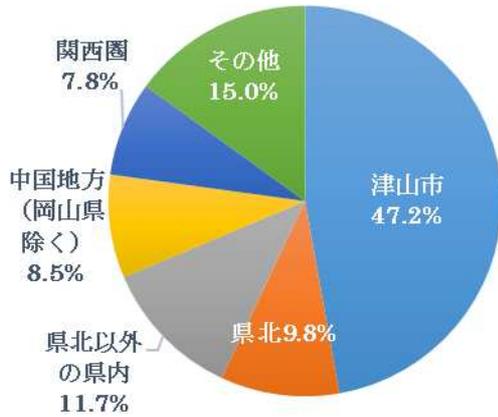
転入する2世代世帯の年代 (回答数49)



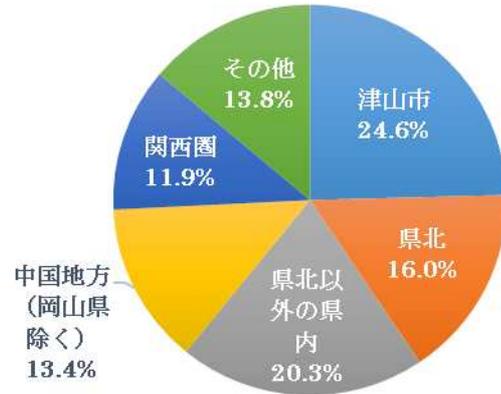
## . 出身地

- 転出者の約60%は、津山市もしくは岡山県北の出身である。
- 転入者の約50%は、津山市もしくは岡山県北の出身である。

転出者の出身地 (回答数574)



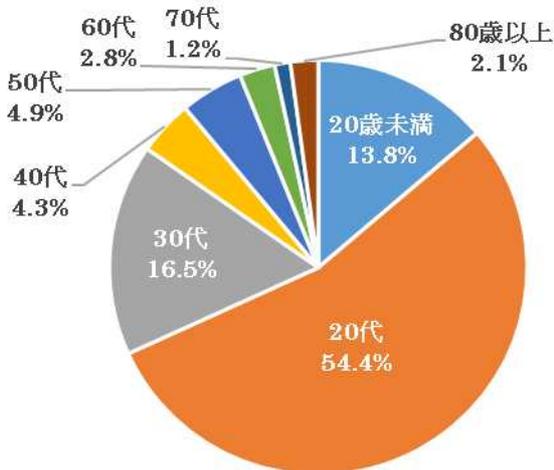
転入者の出身地 (回答数419)



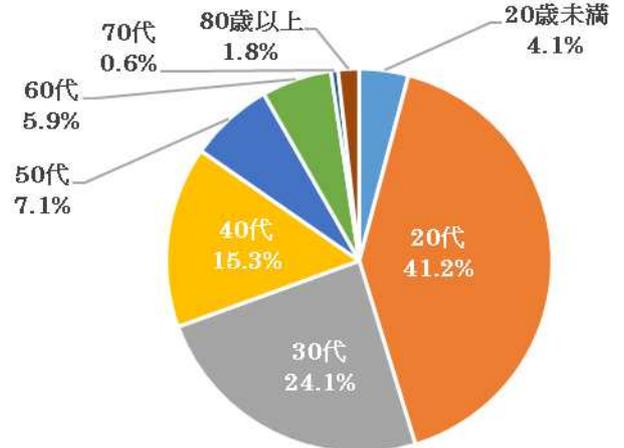
\*「県北」は津山市を除く美作県民局管内市町村を指す

転出する津山市・県北出身者の年代の割合は、20歳未満～30代が85%を占めている。  
転出と転入を比較すると、転出は、20代が高く、転入は、40代が高い。

転出する津山市・県北出身者の年代 (回答数327)

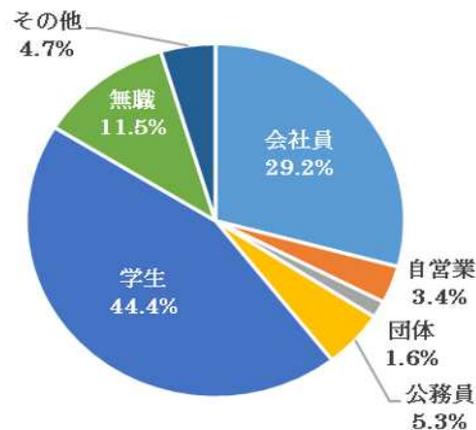


転入する津山市・県北出身者の年代 (回答数170)



津山市・県北出身者の転出前の職業 (回答数322)

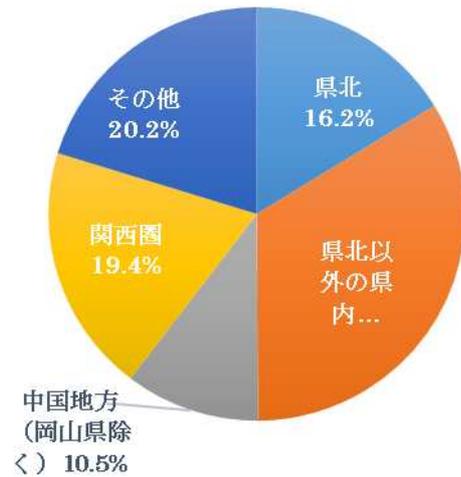
津山市県北出身者の転出前の職業は、学生の占める割合が、約45%である。



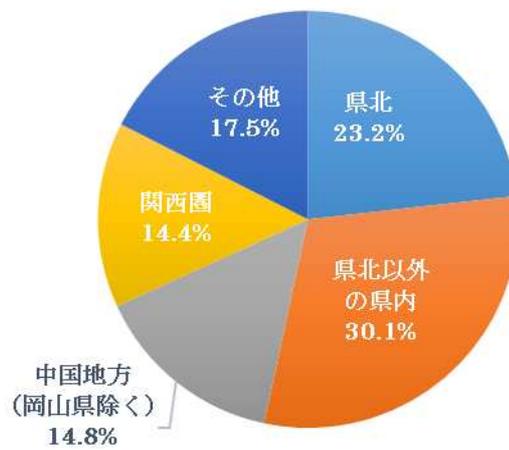
## . 転入前と転出先の住所

- 転出入とも、約50%が岡山県内で移動している。  
転出入ともに、県北以外の県内の異動の割合は、岡山市、倉敷市の割合が高い。

転出先住所 (回答数573)



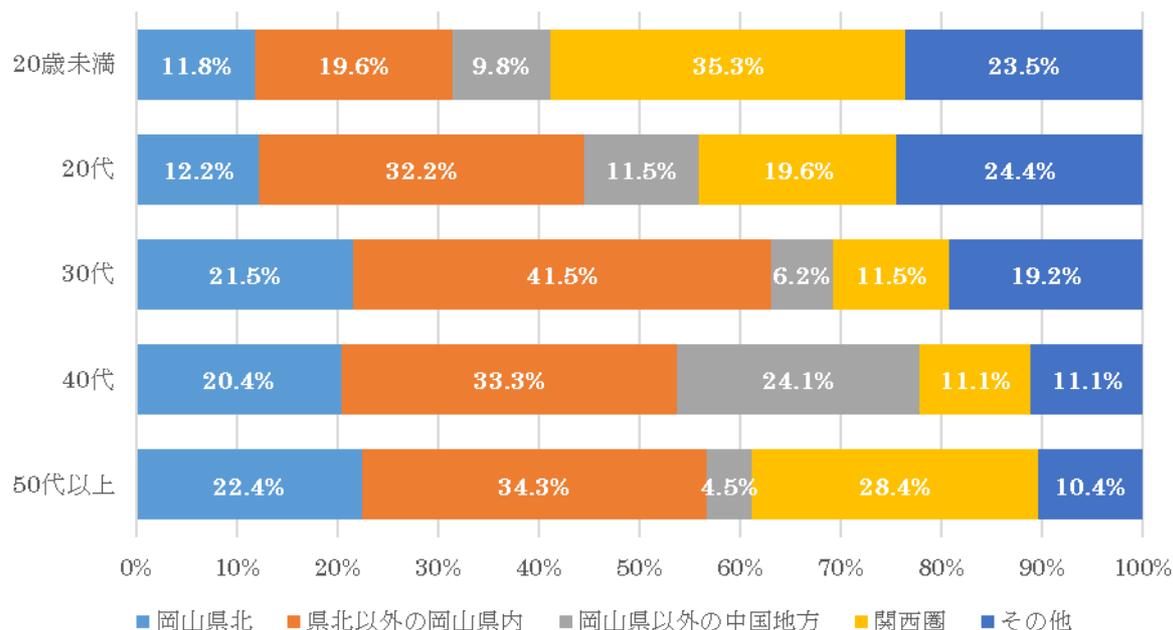
転入前住所 (回答数418)



\* 「県北」は津山市を除く美作県民局管内市町村を指す

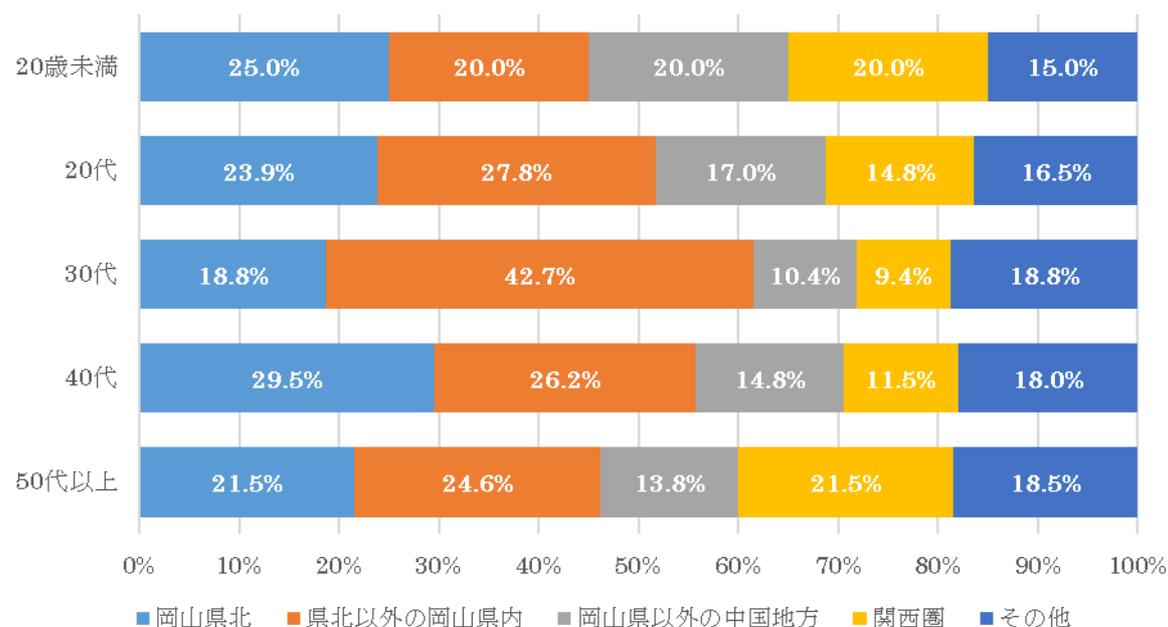
転出先住所を年代別に比較すると、20歳未満は、関西圏が35.3%と最も高い。  
 一方、20代以上では、岡山県内の移動がもっとも高くなっている。  
 30代の転出先住所の割合は、岡山県を含めた中国地方が、約70%である。

年代別転出先住所 (回答数572)



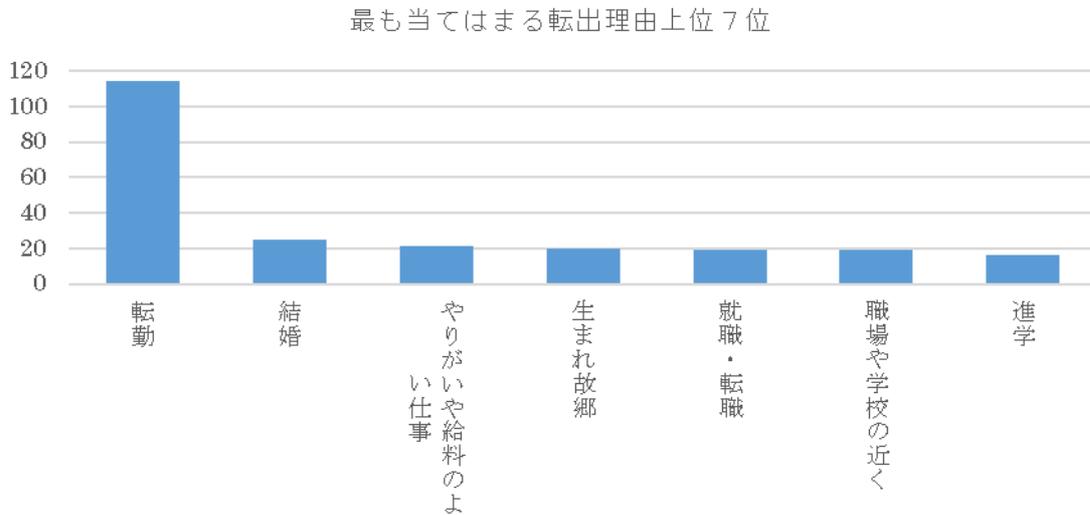
転入前住所を年代別に比較すると、30代では、「県北以外の岡山県内」が最も高いが、その他の年代には、大きな差は見られない。

年代別転入前住所 (回答数418)

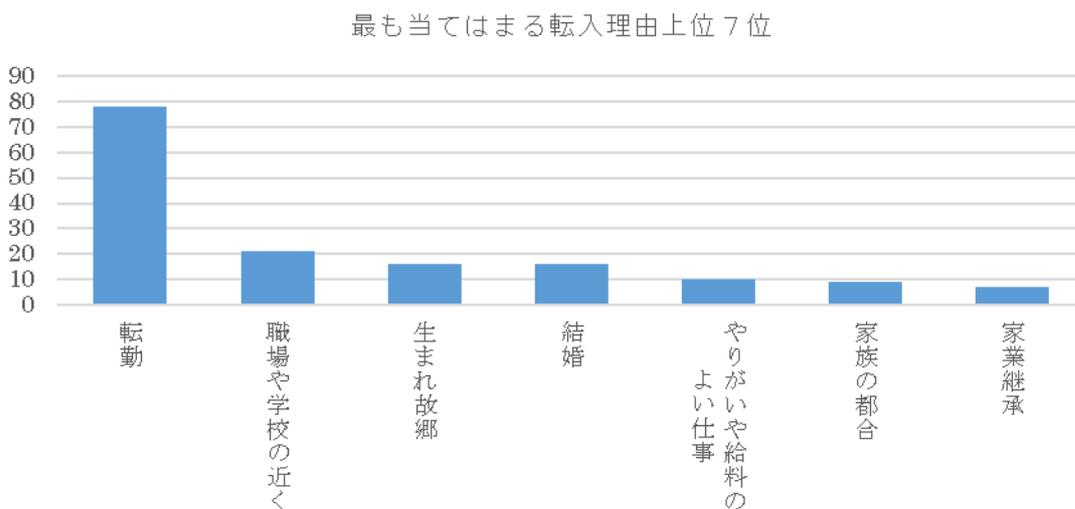


## ・転出入の理由の比較

○ 転出理由で、最も当てはまる理由は「自分（又は家族）が転勤になった」である。



転入理由で、もっとも当てはまる理由は「自分（又は家族）が転勤になった」である。



転出理由と転入理由を比較すると、

- ・転出者では、「やりがいや給料のよい仕事を見つけた」「就職・転職のため」といった仕事に関する理由が上位となっている。
- ・転入者では、「自分や家族の、職場や学校の近くに住みたかった」「自分（又は家族）の生まれ故郷である」といった環境に関する理由が上位となっている。
- ・「結婚」を比較すると、転出の方が割合が高い。
- ・転入理由の「家族の都合」「家業継承」は、転出の理由にはみられない。

下記の表は、転出と転入の理由（総数）の割合を比較したものである。**転出が転入を上回っているもの**に、濃い網かけを、**転入 - 転出の差が大きなもの**に、薄い網かけをしている。

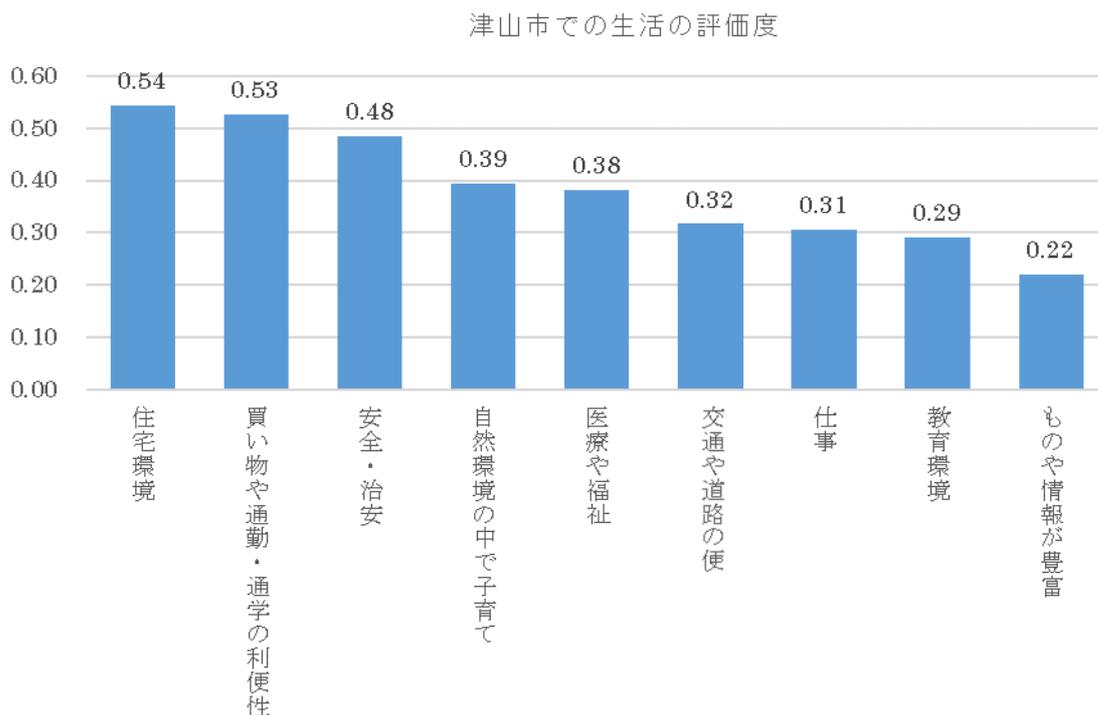
転出入の理由	転出		転入		転出 - 転入
	割合	順位	割合	順位	
自分（又は家族）が転勤になった	43.9%	1	45.3%	1	1.4%
自分や家族の、職場や学校の近くに住みたかった	19.2%	2	20.5%	2	1.3%
やりがいや給料のよい仕事を見つけた	16.8%	3	10.1%	5	6.7%
帰宅時間が適切で、自分や家族のために時間を使える（使いたい）	3.1%	15	6.6%	7	3.5%
農業をすることになった／これからしたいと思う	1.8%	20	1.5%	22	0.3%
自分（又は家族）の生まれ故郷である	11.2%	4	18.2%	3	7.1%
津山市への愛着を感じない（転入の場合は「ある」）	4.4%	9	5.1%	9	0.7%
家族が暮らしたがった／暮らす必要があった	3.3%	14	10.9%	4	7.6%
田舎での暮らしが好きだから	2.0%	16	4.3%	11	2.3%
子どもや家族の健康問題（病気の治療など）	1.1%	25	3.3%	14	2.2%
家業を継承するから	0.7%	27	3.3%	14	2.6%
後継者ではないから	0.9%	26	-	-	-
親（親類）の介護が必要だから	1.3%	23	3.3%	14	2.0%
買い物や通勤・通学、通院などが不便だった（転入の場合は「便利」）	3.7%	11	9.1%	6	5.5%
知人・親類が少なく、不安だった（転入の場合は「多くて安心」）	1.8%	20	5.6%	8	3.7%
広く、安く、快適な住宅や周辺環境が欲しかった（転入の場合は「恵まれている」）	3.5%	12	3.5%	13	0.1%
ものや情報が豊富なところに住みたい	4.4%	9	1.5%	22	2.9%
安全や治安の面で不安があった（転入の場合は「安心である」）	2.0%	16	2.5%	19	0.5%
文化・スポーツ施設が充実していなかった（転入の場合は「充実している」）	1.3%	23	2.0%	20	0.7%
道路や交通の便が悪かった（転入の場合は「よい」）	3.5%	12	4.1%	12	0.6%
医療や福祉の面で心配だった（転入の場合は「充実している」）	2.0%	16	3.0%	17	1.0%
都会で暮らしたい（転入の場合は「せわしさに嫌気がさした」）	4.8%	7	2.0%	20	2.7%
自分（又は家族）の進学のため	7.9%	5	2.8%	18	5.1%
子どもの充実した教育環境のため	2.0%	16	1.0%	26	1.0%
豊かな自然環境の中で子育てをしたい	1.5%	22	1.5%	22	0.1%
結婚のため	6.2%	6	4.8%	10	1.4%
就職・転職のため	4.6%	8	1.5%	22	3.1%

## ・津山市での生活の評価度（転出者）

- 「住環境に恵まれていた」「買い物や通勤・通学、通院などの利便性」「安全・治安の面で安心だった」については、転出者のほぼ半数の方が、「そう思う」と回答している。
- 「豊かな自然環境の中で子育てができた」「医療や福祉の面が充実していた」については、約40%程度、「道路や交通の便がよかった」「仕事があり、働きやすかった」「子どもの教育環境が充実していた」は、約3割の方が、「そう思う」と回答している。
- 「ものや情報の豊富さ」については、20%程度の方が、「そう思う」と回答している。

津山市での生活において感じたこと	評価度	順位
住宅が広く、安く、快適で、周辺環境に恵まれていた	0.54	1
買い物や通勤・通学、通院などが便利だった	0.53	2
安全や治安の面で安心だった	0.48	3
豊かな自然環境の中で子育てができた	0.39	4
医療や福祉の面が充実していた	0.38	5
道路や交通の便が良かった	0.32	6
仕事があり、働きやすかった	0.31	7
子どもの教育環境が充実していた	0.29	8
ものや情報が豊富だった	0.22	9

$$* \text{評価度} = \frac{\text{各項目の「とてもそう思う」の回答数} + \text{「そう思う」の回答数}}{\text{各項目の「有効回収数」} - \text{「無回答数」}}$$

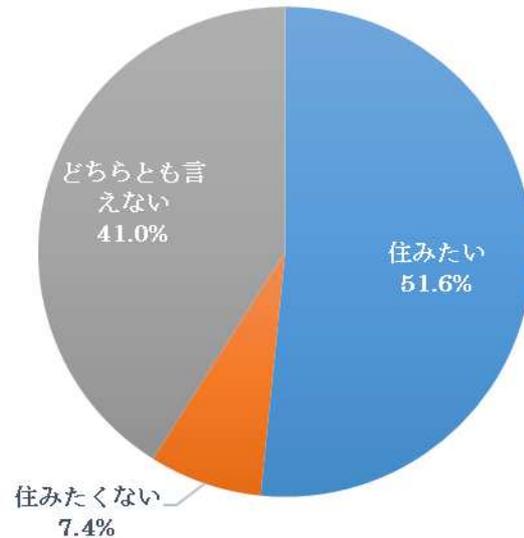


## ．機会があれば津山市にもう一度住みたいか（転出者）

50%以上の方が、「もう一度住みたい」と回答している。

「どちらとも言えない」と回答した方が、約40%であった。

機会があれば津山にもう一度住みたいか（回答数473）



### 全体のまとめ

転出については、仮説のとおり、年代は、20代～30代の若年齢層が高い割合を示し、理由は、「就職」「進学」であった。

一方、転入については、高年齢層の割合が高くなるという予想に反し、若年齢層の割合が高く、年代に差異は見られなかった。

職業、業種については、転出・転入で大きな変化は見られなかった。

移動先については、転出・転入で大きな変化は見られなかった。

転出入の理由を比較すると、「転勤」の割合が一番高いが、転勤以外では、転出は、「仕事に関すること」、転入は、「環境や家族の都合」と、理由に差が生じている。

生活の評価度によると、津山市のよさは、「生活環境」「治安」「自然環境」であり、「住みたい」と答えた方の評価も同様に高い結果となった。

# インターネット・アンケート調査結果報告

平成27年6月

津山市総合企画部政策調整室

## 1 調査の概要

地区別懇談会、分野別懇談会、アンケート調査（懇談会参加者に対して実施）、グループインタビュー調査を実施した結果、市が組むべき課題として示された「雇用」「子育て」「交通」について、実情とニーズを把握するとともに、「津山市が今後目指すべき姿」や「整備していく環境」についての9つの施策に対し、「利用意向」「独自性」「推奨意向」を調査した。

## 2 調査の対象者

無作為に抽出した1,000名の市民に対し、インターネットによるアンケート調査の実施をお願いし、承諾いただいた174名のうち128名（男性54名、女性74名）に回答いただいた。

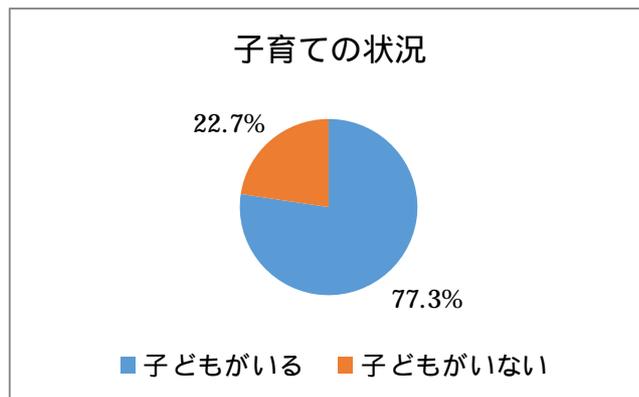
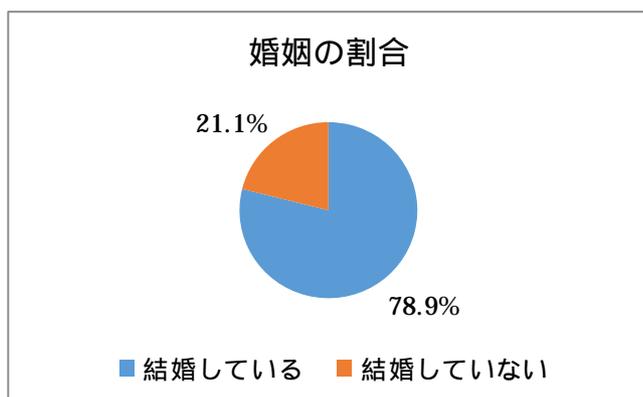
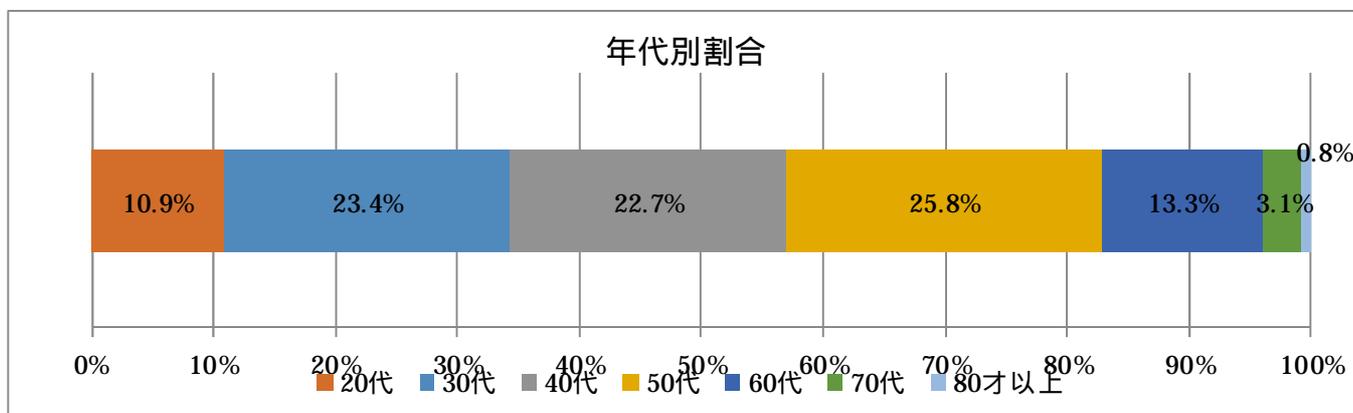
## 3 調査手法

アンケート調査用フォームURLを送信し、インターネットを活用しアンケートを実施した。

## 4 調査期間

平成27年4月17日（金）～4月27日（月）

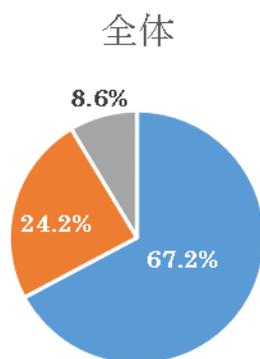
## 5 回答者の属性と子育て状況



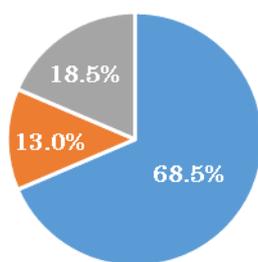
## 各質問の集計結果

### 1. 仕事や労働

質問：あなたは、現在仕事をしていますか？または、今は無職であるが、チャンスがあれば、働きたいと思いませんか？（回答数：128）



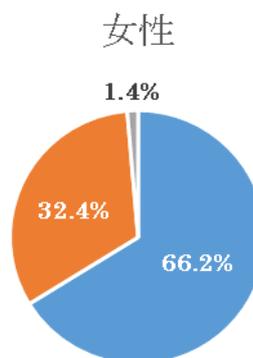
- 働いている
- 今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい
- 今も働いていないし、今後も働きたいとは思わない



- 働いている
- 今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい
- 今も働いていないし、今後も働きたいとは思わない

・「今も働いていないし、今後も働きたいとは思わない」と回答している男性の9割は、60代以上である。

- ・全体の7割近くが就労しており、「今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい」と合わせると、9割超が労働意欲を持っている。
- ・特に、女性は、98.6%という高い割合を示している。
- ・男性の18.5%が「今も働いていないし、今後も働きたいとは思わない」と回答している。

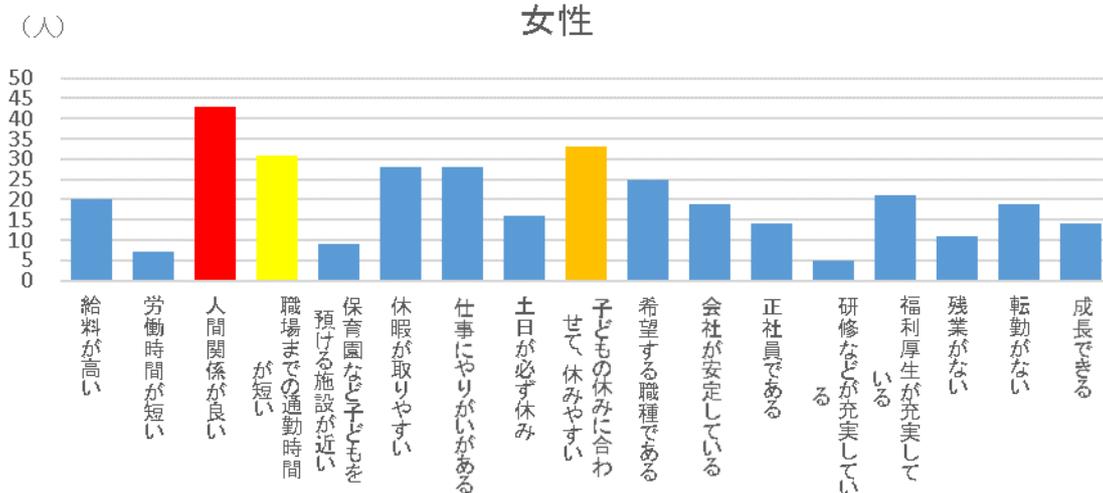
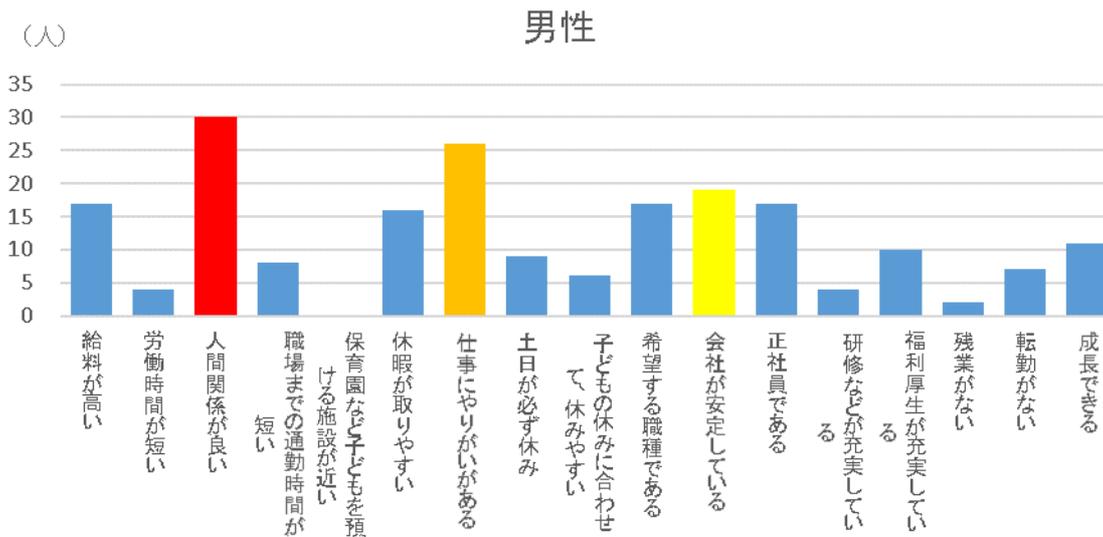
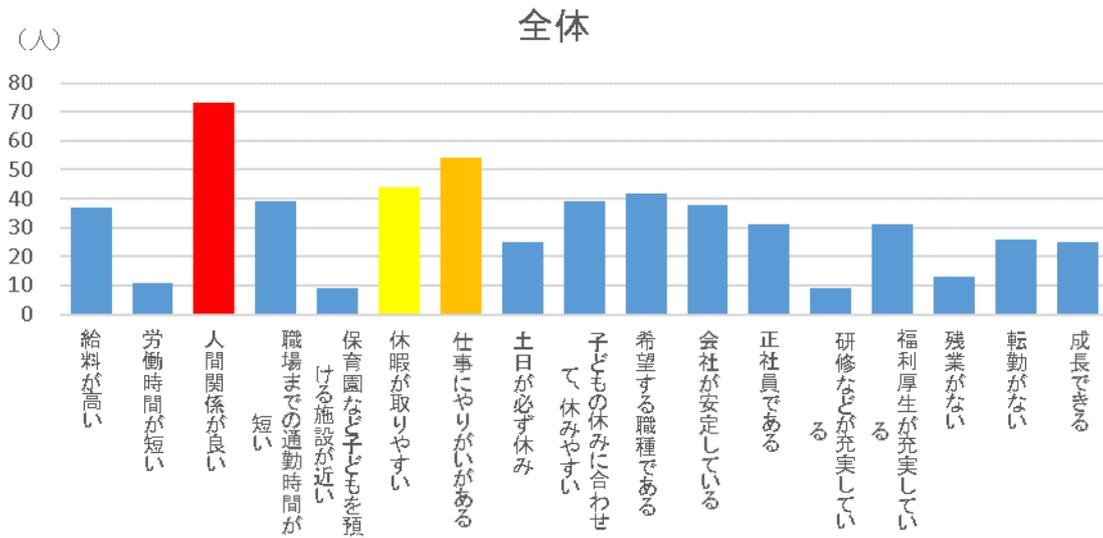


- 働いている
- 今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい
- 今も働いていないし、今後も働きたいとは思わない

・「今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい」と回答した女性の5割が30代である。

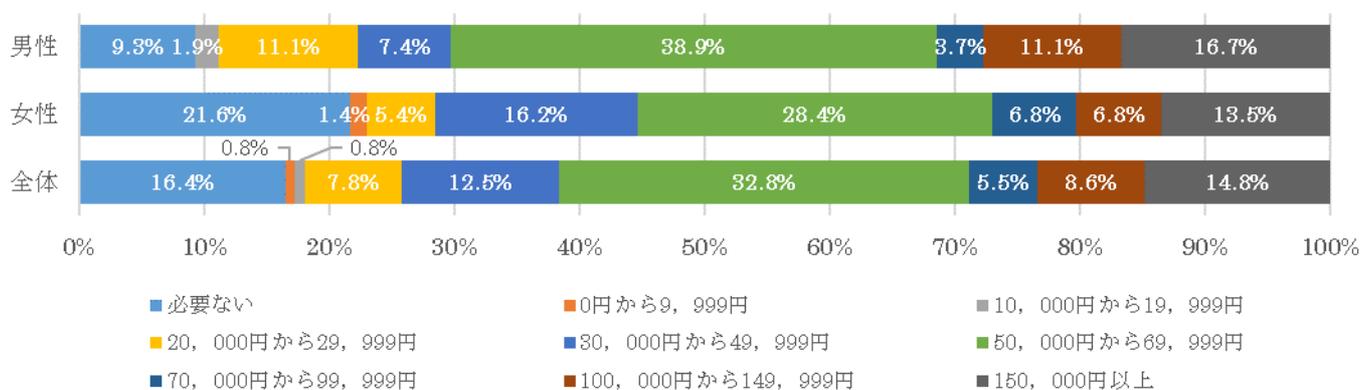
質問：あなたが自分自身の仕事を選ぶときに、重要だと思う基準を、5つまでお選びください。

(回答数：117)

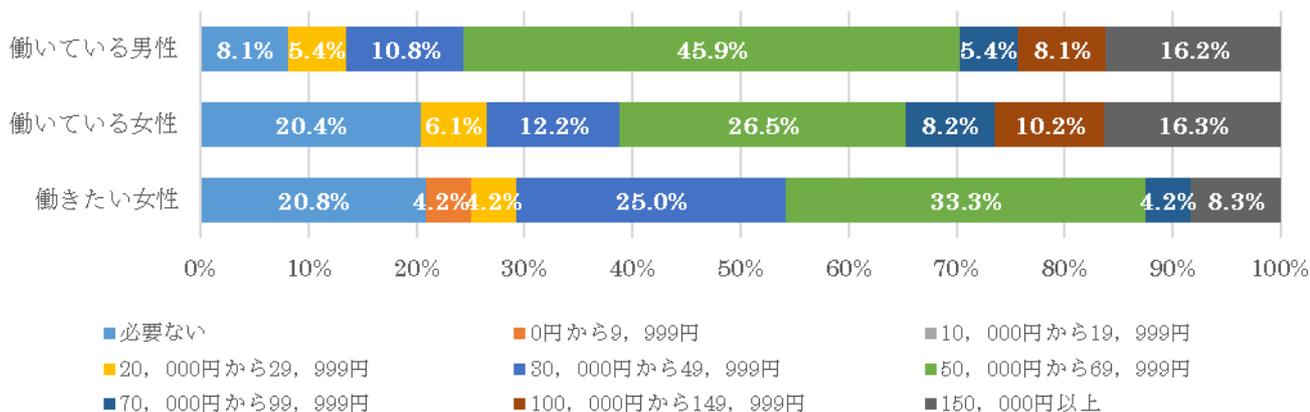


- ・男女とも、仕事を選ぶ際の基準として、「人間関係が良い」と回答しており、男性では7割弱、女性では6割弱が選択している。
- ・全体では「仕事にやりがいがある」という回答が、2番目に多く（5割弱）、男性でも2番目に多い（6割弱）が、女性では4番目（4割弱）である。
- ・全体では3番目に多い（4割弱）「休暇が取りやすい」という回答は、男性では7番目（4割弱）、女性では4番目（4割弱）である。
- ・男性の回答で3番目に多いのは、「会社が安定している」（4割強）である。「給料が高い」「正社員である」という回答がそれに続いていることから、家計維持が重視されていると言える。
- ・女性は、「子どもの休みに合わせて、休みやすい」が2番目に多く（5割弱）、「職場までの通勤時間が短い」が3番目に多い（4割強）、「休暇が取りやすい」がそれに続いている。

質問：月にお金が、あと、いくらあったら（自分を含む家族の）生活が楽になりますか。1つお選びください。（回答数：128）



- ・「50,000円から69,999円」という回答が、全体でも男女別でも最も多い。全体の3割強、男性では4割弱、女性では3割弱が選択している。
- ・全体では「必要ない」という回答が、2番目に多く（2割弱）、女性でも2番目に多い（2割強）が、男性では5番目（1割弱）である。
- ・全体では3番目に多い（1割強）、「150,000円以上」という回答は、男性でも2番目に多い（2割弱）が、女性では4番目（1割強）である。



- ・「働いている」男女と、「今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい」女性を取り上げた場合でも、いずれも、「50,000円から69,999円」という回答が最も多い。特に、働いている男性は、45.9%が回答している。
- ・働いている男性で2番目に多い(16.2%)のは、「150,000円以上」という回答であり、働いている女性の16.3%も回答している。
- ・一方、働いている女性で2番目に多い(20.4%)回答は、「必要ない」であり、今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい女性の20.8%も回答している。
- ・今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい女性では、「10万円未満」の回答が91.7%を占める。

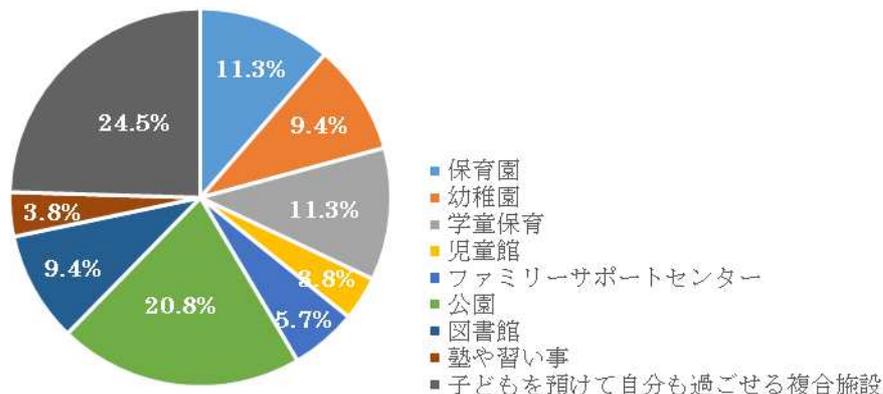
### 「仕事や労働」についての考察

- 女性の労働意欲は高く、「今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい」と回答した女性の5割が30代であることから、子育て世代の女性の就労支援が求められていると考えられる。
- 女性は、仕事を選ぶ際の基準として、「子どもの休みに合わせて、休みやすい」「職場までの通勤時間が短い」「休暇が取りやすい」を、より重視しており、子育てや家事を主に担い、仕事との両立を重視していると考えられる。
- 「今は働いていないが、チャンスがあれば、働きたい女性」では、生活が楽になるために必要な金額は月に10万円未満との回答が9割を超えており、パートや短時間勤務などのニーズがあると考えられる。
- 男性は、仕事を選ぶ際の基準として、「会社が安定している」「給料が高い」「正社員である」を、重視しており、生活が楽になるためには、月に10万円以上必要だという回答が3割近くに上ることからも、所得水準の向上を求めていると考えられる。

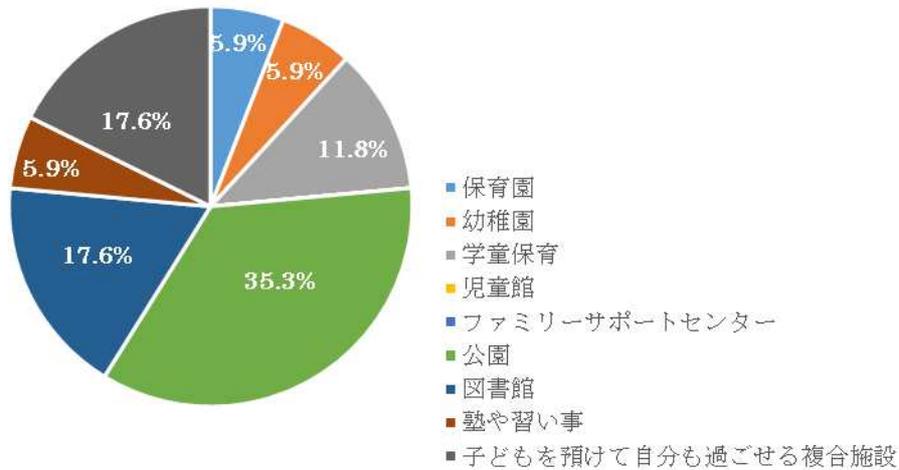
## 2. 子育てや教育

質問：あなたが、子どもの居場所として、今後、今よりも充実してほしいものはなんですか。1つお選びください。(回答数：53)

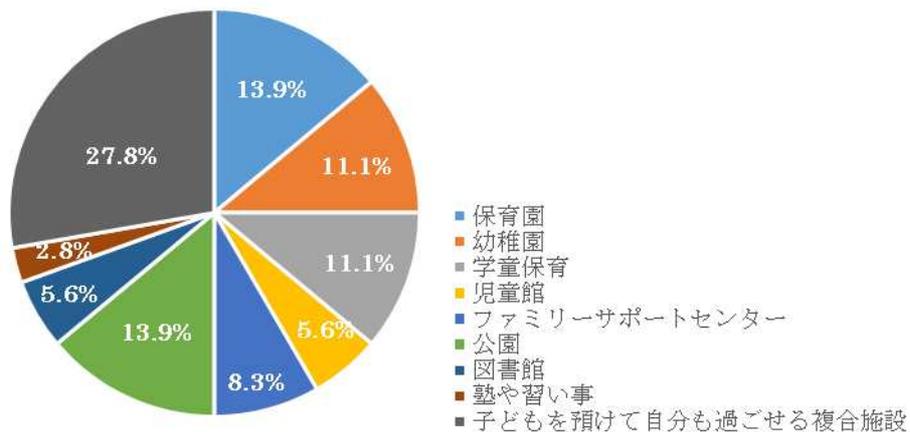
全体



## 男性



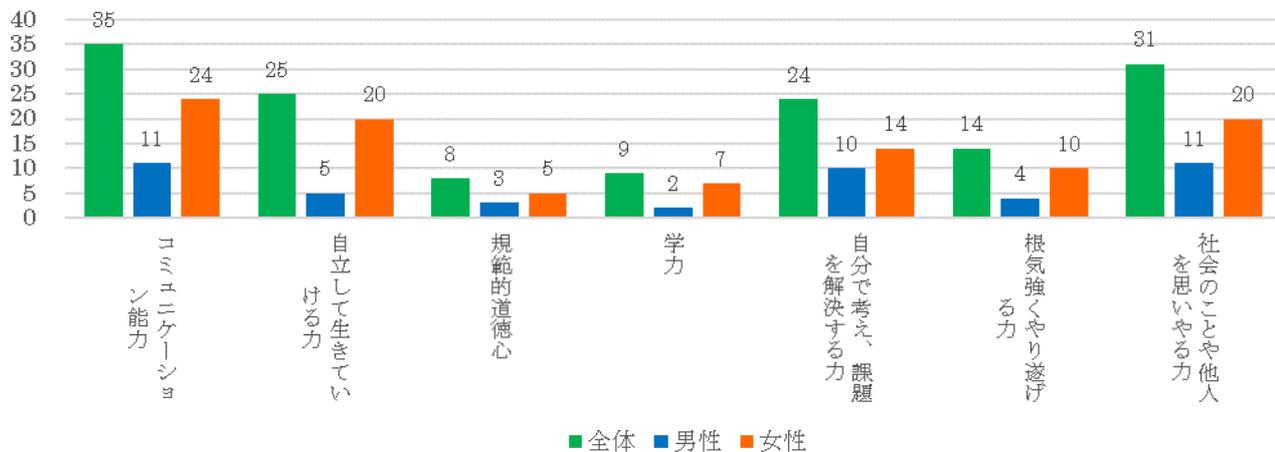
## 女性



- ・全体では、「子どもを預けて自分も過ごせる複合施設」が1番多く（2割強）、2番目が「公園」（約2割）、3番目（1割強）に「保育園」「学童保育」が並んでいる。
- ・男性は、「公園」が1番多く（4割弱）、2番目に、「図書館」と「子どもを預けて自分も過ごせる複合施設」（2割弱）が並んでいる。
- ・女性では、全体と同じく「子どもを預けて自分も過ごせる複合施設」が1番多く（3割弱）、「公園」「保育園」が、2番目（1割強）に並んでいる。
- ・「保育園」「幼稚園」「学童保育」「児童館」「ファミリーサポートセンター」といった子どもを預けられるところについては、全体の4割強、女性の5割が選んでいるが、男性は2割強（ファミリーサポートセンターは、0%）である。

質問：あなたが、子どもに身に付けてほしい能力はなんですか。3つまで、お選びください。

(回答数：53)



- ・「コミュニケーション能力」という回答が、全体でも男女別でも最も多い。全体の7割弱、男性では6割強、女性では7割弱が選択している。
- ・2番目は、「社会のことや他人を思いやる力」で、全体および男女共通である。全体の6割弱、男性では6割強、女性では6割弱が選択している。
- ・全体および女性では、「自立して生きていける力」が3番目に多く、全体の5割弱、女性の6割弱が回答している。男性では4番目（3割弱）である。
- ・男性で3番目に多い（6割弱）「自分で考え、課題を解決する力」は、全体および女性では4番目であり、全体の5割弱、女性の4割弱が選択している。

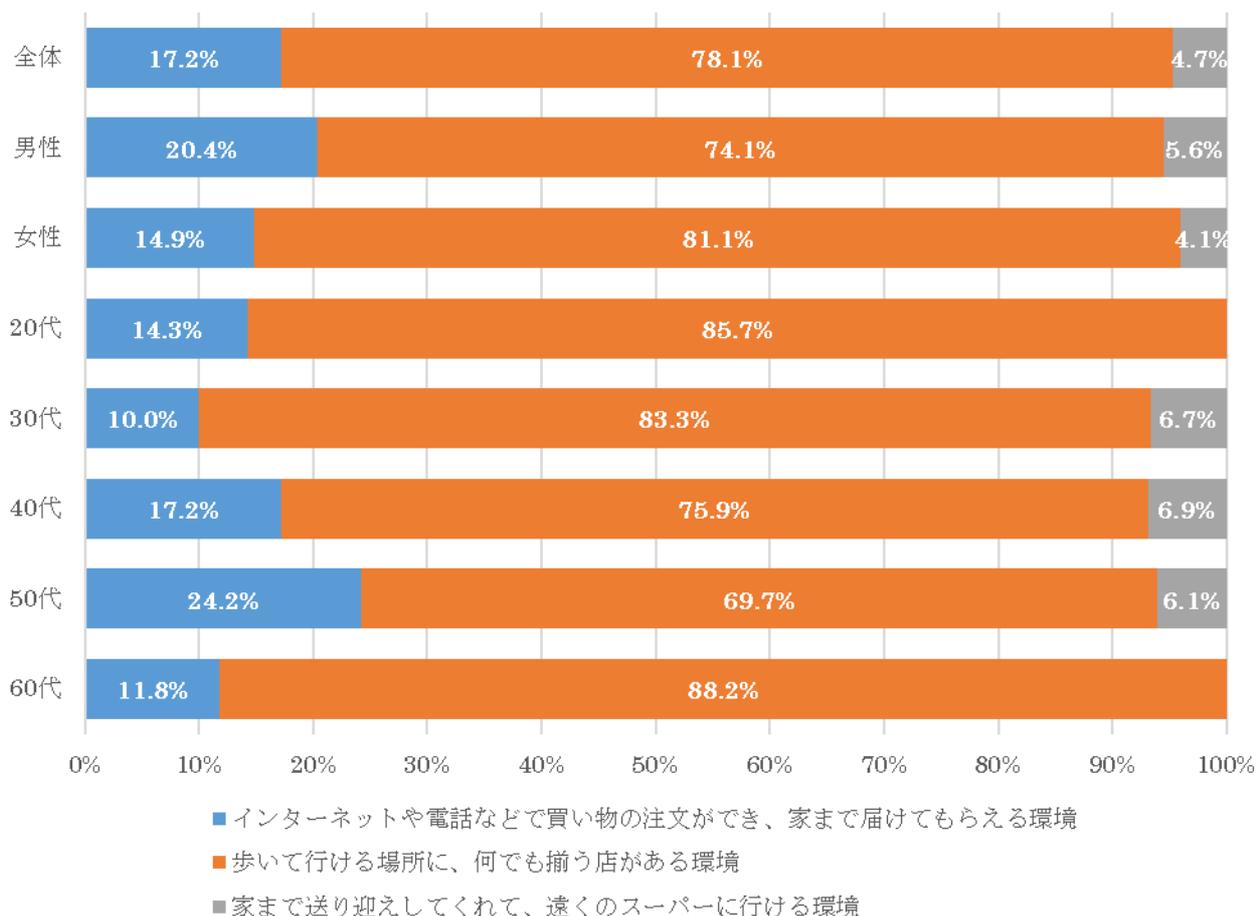
### 「子育てや教育」についての考察

- 子どもの居場所としては、「子どもを預けて自分も過ごせる複合施設」と「公園」の充実が求められている。「公園」については、女性に比べ、男性の希望が高い結果となったが、父親は、屋外での活動を望む傾向が表れたものと考えられる。
- 「保育園」「幼稚園」「学童保育」「児童館」「ファミリーサポートセンター」は、充実を求める意向について、男女で差があるが、家庭の中で、子育てに対する女性と男性が担う役割を反映した結果であると考えられる。
- 子どもたちに身に付けてほしい能力として、「コミュニケーション能力」「社会のことや他人を思いやる力」「自立して生きていける力」「自分で考え、課題を解決する力」が高い率となったのは、質問内容を相対的に判断したもので、「主体的・積極的に判断したり、行動できる大人になることを望んでいる。」と考えられる。

### 3. 交通やまちづくり

質問：日常生活の買い物のために、最も望ましい環境はどれですか。1つお選びください。

(回答数：128)



- ・「歩いて行ける場所に、何でも揃う店がある環境」という回答が、全体でも男女別でも最も多い。全体の8割弱、男性では7割強、女性では8割強が選択している。
- ・2番目は、「インターネットや電話などで買い物の注文ができ、家まで届けてもらえる環境」であり、全体および男女共通である。全体の2割弱、男性では2割強、女性では1割強が選択している。
- ・3番目は、全体および男女共通で「家まで送り迎えしてくれて、遠くのスーパーに行ける環境」である。いずれも5%前後である。
- ・「家まで送り迎えしてくれて、遠くのスーパーに行ける環境」は、20代や60代は、回答数がゼロであった。
- ・40代では2割弱、50代では2割強が、「インターネットや電話などで買い物の注文ができ、家まで届けてもらえる環境」を希望しており、60代でも1割を超えている。

質問：年を取り、車に乗れなくなったらどうしたいと思いますか。1つお選びください。

(回答数：120)

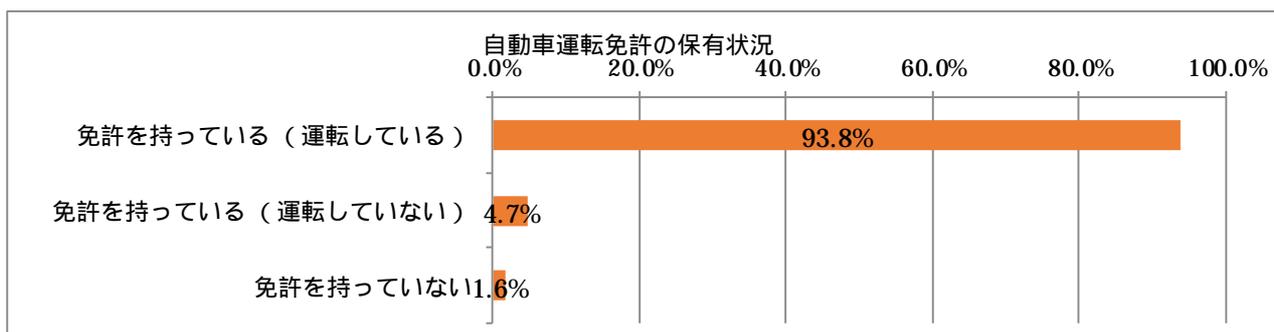


- ・「できるだけ家の近くに、便利な公共交通機関（バスやデマンドタクシー等）がほしい」という回答が、全体でも男女別でも最も多い。全体の7割弱、男性では7割強、女性では8割弱が選択している。
- ・2番目は、「家族や知り合いに頼んで、送迎したり一緒に行ったりしてもらいたい」であり、全体および男女共通である。いずれも2割弱が選択している。
- ・3番目は、全体および男女共通で「出かける回数を減らす」である。いずれも1割未満である。
- ・60代は、「出かける回数を減らす」が他の世代に比べて高い。

### 「交通やまちづくり」についての考察

- 「歩いて行ける場所に、何でも揃う店がある環境」が強く求められている。
- 40代以上で「インターネットや電話などで買い物の注文ができ、家まで届けてもらえる環境」が一定の割合を占めており、インターネットが生活の中で、果たす役割が大きくなってきていることが推察される。
- 車に乗れなくなったら「できるだけ家の近くに、便利な公共交通機関（バスやデマンドタクシー等）がほしい」という回答が7割を超えており、交通手段の確保は重要な課題である。
- 60代において、「出かける回数を減らす」が全体に比べて高いことから、高齢者の健康づくりや人との交流などの面からも、交通手段の確保が重要であると考えられる。

(参考)



## 市の施策に対する市民の意識調査結果

### 調査内容

地区別・分野別懇談会およびグループインタビューの結果から、市民ニーズに基づいて導き出した9つの施策について、市民が望み、かつ、独自性が高く、かつ、他の自治体に住んでいる人に勧めたいものを調査した。

結果は以下の通りである。

	施 策	評価スコア
第1位	子どもを育てながら働きやすい環境がある	8.65
第2位	公的で安全な子どもの居場所がたくさんある	8.57
第3位	便利で使いやすい公共交通が地域の中にある	8.44
第4位	生活を支える民間サービスを手軽に利用できる制度やしきみがある	8.43
第5位	地域や家族みんなで子育てを支えてくれる	8.36
第6位	市からの情報提供がていねいでとてもわかりやすい	8.34
第7位	地域が共に助け合い自立していけるしきみがある	8.24
第8位	田舎らしい生活や習慣が尊重され安心して暮らすことができる	8.15
第9位	子育て関連の施設が一カ所にまとまっている	7.98

【参考：各評価指標のスコア】

施策	利用意向	順位	独自性	順位	推奨意向	順位
子どもを育てながら働きやすい環境がある	3.63	2	2.55	3	2.47	1
公的で安全な子どもの居場所がたくさんある	3.65	1	2.47	9	2.45	2
便利で使いやすい公共交通が地域の中にある	3.60	3	2.48	7	2.36	5
生活を支える民間サービスを手軽に利用できる制度やしきみがある	3.58	4	2.49	4	2.36	6
地域や家族みんなで子育てを支えてくれる	3.44	6	2.48	7	2.44	3
市からの情報提供がていねいでとてもわかりやすい	3.50	5	2.49	4	2.35	7
地域が共に助け合い自立していけるしきみがある	3.32	7	2.58	2	2.34	8
田舎らしい生活や習慣が尊重され安心して暮らすことができる	3.28	8	2.49	4	2.38	4
子育て関連の施設が一カ所にまとまっている	3.05	9	2.66	1	2.27	9

\* 「利用意向」は、「非常になってほしい」を4点、「なってほしい」を3点、「なってほしいと思わない」を2点、「全くなってほしいと思わない」を1点として、それぞれの回答数に点数を乗じた合計を、回答数で除したもの。

\* 「独自性」は、「全く市町村で実現されていない」を4点、「あまり多くの市町村で実現されていない」を3点、「多くの市町村で実現されている」を2点、「非常に多くの市町村で実現されている」を1点として、それぞれの回答数に点数を乗じた合計を、回答数で除したもの。

\* 「推奨意向」は、「非常に自慢したい」を4点、「自慢したい」を3点、「自慢したいと思わない」を2点、「全く自慢したいと思わない」を1点として、それぞれの回答数に点数を乗じた合計を、回答数で除したもの。

\* 評価スコアは、各施策の（「利用意向」＋「独自性」＋「推奨意向」）で算出。

## 総合計画策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

本市は、平成17年2月に1市3町1村が合併し、岡山県北初の10万人都市となり、新たな出発をしました。

合併後、平成18年度を初年度とする「津山市第4次総合計画」を策定し、めざすまちの姿を「キラめく未来 人と自然が活きるまち」と定め、県北の拠点都市としての役割を担うため、平成27年度を目標年次として各種施策・事業を総合的かつ計画的に推進してきました。

この間、地方自治体を取り巻く環境は、少子高齢化の急速な進行に伴う人口減少、経済の減速、地球温暖化に起因すると言われる異常気象や大規模災害の多発、情報のグローバル化、地方分権の進展など、大きく変動しており、これまで経験したことのない変革の時代に突入しています。

このような背景の中で、本計画は、著しく変化する時代に適切に対応し、本市の特性や時代の潮流の変化を的確に捉えつつ、市民の多様なニーズを把握しながら、本市が目指す姿と進むべき道筋を明らかにするための、総合的なまちづくりの指針として策定します。

本計画策定にあたっては、本市の将来の厳しい人口推計を示し、市内全域での地区別懇談会や分野別懇談会を開催するとともに、市民満足量調査を実施するなど、幅広く市民の意見を聴き、計画に活かすよう努めました。

### 2 計画の名称

「津山市第5次総合計画」

### 3 計画の構成と期間

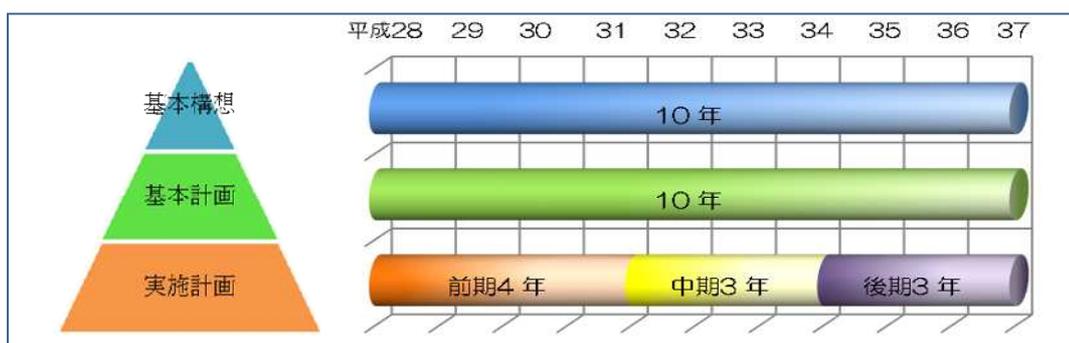
本計画は「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」により構成します。

「基本構想」は、本市のめざすまちの姿を実現するための施策の基本方向を定めるものです。

「基本計画」は、基本構想に掲げる施策の方向性を具体化し、行政各分野にわたって必要な諸施策の方針など具体的な内容を総合的、体系的に明らかにするものです。

「実施計画」は、基本計画において定めた施策を着実に推進するため、年次的に具体的な事業の内容を示すものです。

計画期間は平成28年度を初年度とする平成37年度までの10年間とします。変化する社会状況に柔軟に対応するため、実施計画は、平成28年度から31年度までを前期、平成32年度から34年度までを中期、平成35年度から37年度までを後期とし、計画書は期別に作成し、効果的に事業の推進を図ります。



## 4 津山市の現況

(1) 位置と面積

(2) 地勢と自然

(3) 沿革

### 主要指標

- 1 人口(階層別・昼間)
- 2 世帯数
- 3 産業別就業者数

### 土地利用の考え方

### 基本構想

#### 1 時代の潮流と課題

##### (1) 人口減少、少子高齢化の進行

わが国は、少子高齢化が急速に進行し、平成20年をピークに本格的な人口減少社会へと移行しています。

本市においては、国よりも速いペースで平成7年を境に人口減少に転じ、平成17年の合併直後からこの10年間で約6千人もの人口が減少しています。

人口減少と急速な少子高齢化の進行は、労働力の減少による経済の衰退、社会保障における負担の増大、単独世帯の増加など家族構成の変化や地域コミュニティの衰退、税収の減少などを招き、必要な行政サービスの提供が困難になるなど、市民生活全般に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

このような状況の中で、国は地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するために、魅力あふれる地方を創生し、地方への流れをつくるという地方創生の基本方針を示したところであり、本市でも、産業の活性化はもとより、既存の社会資源を効果的に活用し、本市の特性を活かしたコンパクトなまちづくりを行うとともに、子育て世代の定住促進や子どもを安心して産み育てることができ、子どもたちが健やかに育つことができる環境を地域社会全体で整備していくことが重要です。

また、団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を見据えて、高齢者が地域の中で、生きがいをもって元気に暮らせる施策の推進が必要です。

## (2) 地方分権の進展と協働のまちづくり

地方分権の進展により、地方自治体は自己決定、自己責任を基本に、まちの魅力や特性を活かした特色ある地域づくりや自立した行政運営ができる体制づくりが求められています。

また、市民、団体、企業などが自ら主体となって、まちづくりに参画し、協働の仕組みを強化していくことが必要であり、積極的な情報公開を進めるとともに、多様化する市民ニーズに応えられるように、効率的な行財政運営や職員の政策形成能力の向上を図っていかねばなりません。

## (3) グローバル社会の進展に伴う産業構造や就業環境の変化

交通や情報ネットワークなどの発達により、経済をはじめとした観光、文化、環境、人づくりなど様々な分野のグローバル化が急速に進展しており、地域間、国際間の競争がますます激しくなっています。

経済面では、企業の生産拠点の海外への移転や集約化が進み、製造業の空洞化がますます顕著になっており、一方では新たなビジネス形態が現れ、産業を取り巻く環境は多様化しています。今後、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)など貿易の自由化による影響を受け、ますます厳しい状況になることが予想されます。

雇用面では、非正規雇用者の割合が増加し、格差社会の進行が深刻となっています。また「ニート」の増加・年長化が深刻となっており、雇用環境の改善や若者の就労意欲の向上を図ることが求められています。

本市でも、新規ビジネスなどの起業支援に取り組むとともに、地域の強みを活かした戦略的な企業誘致・企業留置により、魅力的な産業集積を図り、雇用の創出につなげていくことが必要です。

## (4) 安全で安心を求める意識の高まり

近年の気象環境の変化により、大型台風の襲来や局地的な大雨などの自然災害が頻発しています。また、東日本大震災を契機として、市民の安全、安心の意識が高まり、これまでの行政機関などを主体とした防災対策を見直し、災害に強いまちづくりに向けた取り組みが求められています。

また、食に関する安全性の問題や高齢者や子どもを巻き込む犯罪の発生など、市民生活を取り巻く社会への不安が拡大しています。

すべての市民が、安全に、安心して、快適な生活を送るためには、市民一人ひとりが協力し、見守りなどの助け合いや、災害時における市民相互の支え合いなど、自助・共助を基本に、まちづくりを進めていかねばなりません。

## (5) 教育環境の変化、生涯学習の推進

知識基盤社会の本格的な到来に向けて、次代を担う子どもが、主体的・能動的に考え取り組んでいく力や、社会を生き抜く力を身につける教育の推進が求められています。

しかしながら、社会の著しい変化の中で、児童虐待、経済格差の拡大による子どもの貧困、家庭・地域社会の教育力の低下など、子どもを取り巻く環境は深刻な状況が続いています。学校では、不登校・暴力行為・いじめなどの問題に対応していますが、子どもたちの学力の向上、学習習慣の定着を図っていくためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担いながら、社会全体で取り組んでいかねばなりません。

また、幅広い世代の人々が、芸術・文化・スポーツなどを通じ学び合い、生涯にわたって生きがいや楽しみを感じながら、学習成果を地域の中で活かす環境づくりが必要です。

## (6) 環境に配慮した低炭素・循環型社会への移行

経済の発展やエネルギー消費の増加に伴い、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨などの環境問題が地球規模で顕在化しています。

さらに、福島原子力発電所の事故が発生したことにより、環境問題への意識や関心が高まっており、低炭素社会や循環型社会の形成、自然環境の保全、再生可能エネルギーの普及・活用などの動きが活発化しています。

市民、行政、事業者が連携して環境に配慮した取組みを進め、人と自然が共生するまちづくりを推進していく必要があります。

## (7) ライフスタイル、価値観の多様化への対応

人々の価値観が、生活のゆとりやうおいを重視し、個性的な生き方を求める方向に変化してきており、個人の価値観に合致したライフスタイルの選択、ワークライフバランスの実現が求められています。

また、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)によるコミュニケーションの形態は、人と人とのつながり方にも大きな変化を生じさせています。

こうした新しいツールも有効に活用しながら、一人ひとりがお互いを認め合い、価値観の多様性を社会全体で受け入れ、市民の自己実現、社会参加への意識を高めることにつなげていく必要があります。

## (8) 地域コミュニティの維持

少子高齢化、結婚への若者の意識の変化、個人情報保護への過度な対応などにより、地域コミュニティへの帰属意識や人と人とのつながりが希薄になり、社会から孤立している人が増えており、無縁社会といわれる時代が到来しています。

一方、中山間地域の集落などでは、人口の流出や少子高齢化などの進展により、地域コミュニティの活力や自治機能の低下が懸念されています。こうした地域においては、住みたいところに住み続けられるように、システムとして地域コミュニティの維持が図られるとともに、小さな拠点づくりを進め、周辺集落と公共交通ネットワークで結ぶコンパクトビレッジを推進していく必要があります。

## (9) 社会インフラなどの老朽化への対応

わが国では、高度経済成長期以降、道路、橋梁、トンネル、上下水道などの社会インフラ、教育・福祉・文化施設などの公共施設が数多く建設されました。建設から半世紀近くが経過した現在、各種施設の老朽化が進み、更新、改修の必要な時期に直面しています。

また、市町村合併により、市域に同じ機能を有する施設が数多く存在するため、人口の推移や維持管理にかかる費用も考慮し、施設の統廃合を図っていく必要があります。

本市の公共施設についても、同様に老朽化が進んでおり、類似施設が多数あることから、ファシリティ・マネジメントの観点を取り入れ、施設の機能に着目して再編を進めていかなければなりません。

## 2 基本理念

### 地域の力を活かす みんなが主役のまちづくり

本市は、先人のたゆまぬ努力によってまちが創られ発展し、自然、歴史、文化などのかけがえのない財産を受け継ぎながら、まちの魅力を形づくってきました。

今日直面する人口減少、少子高齢化、グローバル社会の拡大といったかつて経験したことがない社会情勢の中で、持続可能なまちづくりを行っていくためには、地域の力である資源、人材、特色を活かしながら、新たな魅力を創り出していく必要があります。

そのため、全ての市民が互いを尊重し支え合うとともに、一人ひとりが主役となり、生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めます。

## 3 めざすまちの姿

### 笑顔かがやく 活力みなぎる 希望あふれるまち

## 4 まちづくりの推進方針

### つくる つなぐ つかむ 津山

めざすまちの姿を実現するために、次の3つの推進方針を掲げ、市民満足度を高めるとともに、誰もが笑顔で、活力がみなぎり、誇りと希望をもてる市民主役のまちづくりを進めていきます。

#### つくる

人を育み、雇用の場をつくり、活力がみなぎり、安全で安心な地域づくりを進めます。

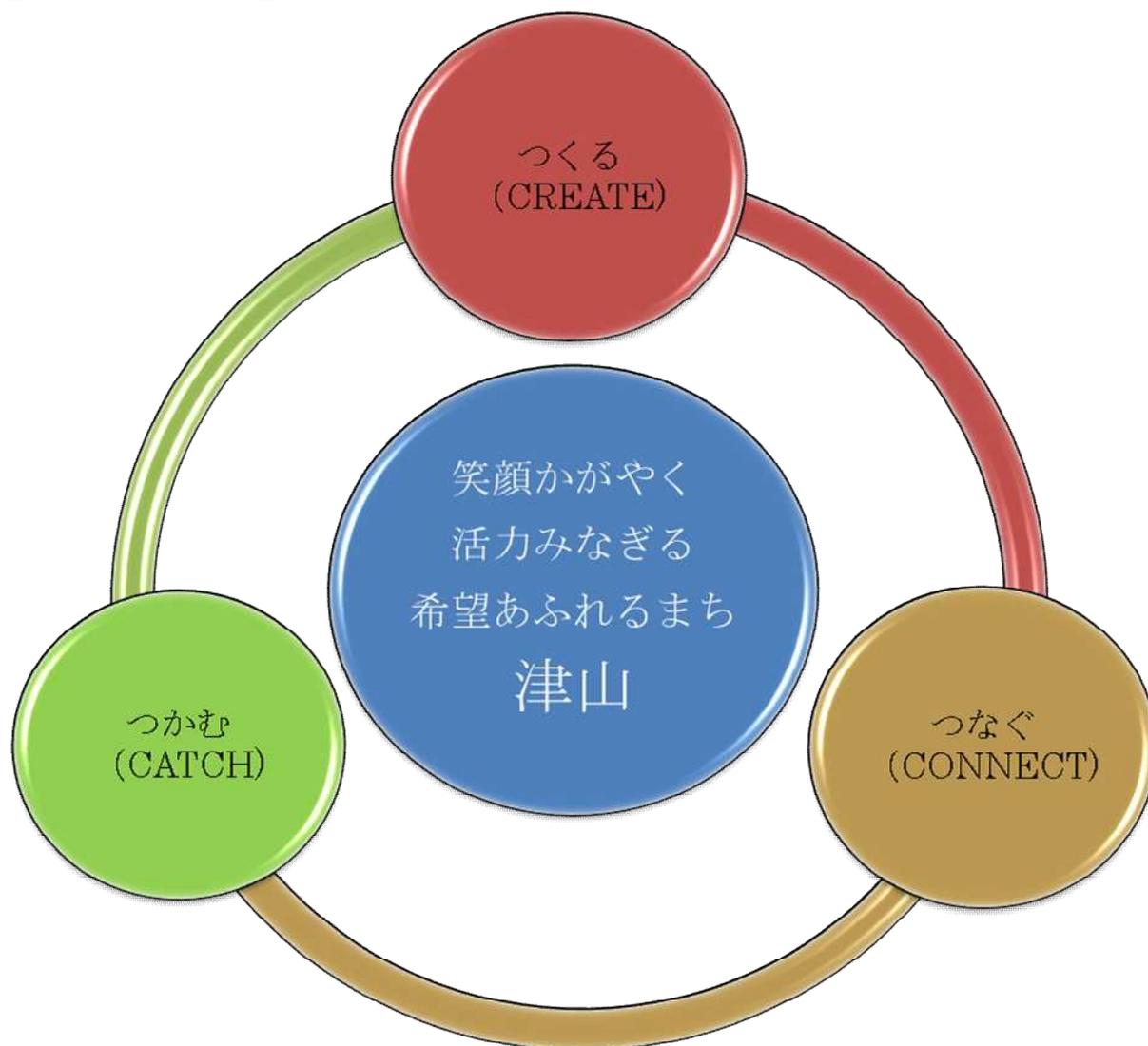
#### つなぐ

歴史・文化・自然を次の世代に継承していくとともに、人と人、人と地域をつなぎ、連帯感があり、絆が深まるまちづくりを進めます。

#### つかむ

市民の多様なニーズや社会環境の変化をつかみ、時代を先取りした効果的な政策を実行するとともに、まちの魅力を市の内外に広く発信し、人のこころをつかみ、訪れたい、住んでみたいと感じてもらえるまちづくりを進めます。

## 【イメージ図】



### 5 目標年次

この基本構想は、平成28年度を初年度とし、10年後の平成37年度を目標年次とします。

### 6 目標人口

進行する人口減少に歯止めをかけ、本市の人口を、平成37年(2025年)には、〇〇人 とすることを目標とします。

## 7 まちづくりの大綱

めざすまちの姿を実現し、市民満足量を増加させるために、次の5つの大綱を掲げ、体系的に施策の方向性を示し、まちづくりを進めます。

- (1) 子育て環境の充実と人と文化を育むまちづくり（こども、学校教育、生涯学習、歴史文化、スポーツ）
  - ・子どもの確かな学力と社会を生き抜く力を身に付けることができる教育の推進
  - ・結婚から出産、育児までの支援により安心して子育てができるような環境づくり
  - ・生涯にわたり自主的に学べるように、文化・芸術やスポーツを楽しむ環境の整備
  - ・歴史文化資源の活用と保存への取り組み
- (2) 健やかで安心できる支え合いのまちづくり（福祉、医療、健康、人権、地域活動）
  - ・高齢者が生きがいを感じながら、生涯元気で暮らせる環境の整備
  - ・障害のある人が、自立した生活を送ることができるよう、地域社会への参加促進
  - ・地域医療や救急医療体制の充実、適切な医療・福祉サービスを提供
  - ・生活習慣病予防や食生活習慣の改善のため、健康管理、食育の推進
  - ・人や地域のつながりを大切にし、市民が生きがいを持ち暮らせる、支え合いのまちづくりの推進
- (3) 雇用の創出とにぎわいのあるまちづくり（産業、経済、雇用、観光）
  - ・農地や森林の多面的な機能の維持、担い手の育成、付加価値の高い農林産物の生産、農工商連携、地産地消や6次産業化の推進
  - ・次の世代につなげる地域資源の活用を図ることのできる農林業の振興の推進
  - ・雇用の創出と経済的基盤の安定に向け、中心商店街の活性化、地元企業の育成・支援、産学官での技術開発、販路開拓などの推進、企業立地の推進
  - ・企業の人材確保の支援、若者の地域企業への就業促進の推進
  - ・観光産業の育成や広域的な観光振興の取り組み
- (4) 豊かな自然環境の保全と快適にくらせるまちづくり（生活環境、低炭素、公園、上下水道）
  - ・住みよい環境と豊かな自然を、共に享受できるまちづくりの推進
  - ・多様な生物、森林や水などの自然環境の保全
  - ・エネルギーの地産地消や効率的な活用、資源循環の推進による低炭素都市の実現
  - ・公園環境の整備と緑地の保全
  - ・下水道の整備、上水道の適正な維持管理による安定的な供給体制維持
- (5) 災害への備えと都市機能の充実したまちづくり（都市基盤、交通政策、防災、防犯）
  - ・消防体制の充実、自主防災・防犯組織の育成・支援、交通安全意識の高揚などの取り組み
  - ・防災・減災
  - ・計画的な道路ネットワークの整備など安全で良好な居住環境の確保
  - ・地域の拠点をつなぐ公共交通の利便性の向上の取り組み
  - ・空港津山道路などの広域幹線道路の整備とJR各線の利用促進

## 8 大綱の推進手法

大綱に掲げるまちづくりを実践し、効率的な都市経営を推進していくために、行政として取り組んでいく手法は次のとおりです。

### (1) 共創・協働によるまちづくり

- ・行政情報やまちづくりに関する情報の積極的提供による情報共有化の推進
- ・市民ニーズや意見反映など

### (2) 市政情報の発信とシティ・プロモーションの推進

- ・市政情報のわかりやすい発信
- ・ソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）による情報発信の取組み
- ・シティ・プロモーション事業の取組みによる本市の魅力発信

### (3) 行財政改革と情報化の推進

- ・行財政改革の推進
- ・ファシリティ・マネジメントによる施設の機能再編
- ・ICT環境の充実、推進による行政運営の効率化や市民の利便性の向上

### (4) 広域行政の推進と定住自立圏の実現

- ・広域行政の推進
- ・定住自立圏実現をめざした各分野における共同体制の構築

# 基本構想イメージ図（案）

計画の策定にあたって  
1. 策定の趣旨  
2. 計画の名称  
3. 計画の構成と期間  
4. 津山市の現況

計画の指標  
1. 人口（階層別・昼間）  
2. 世帯数  
3. 産業別就業者数

市民の声  
1. 地区別・分野別懇談会  
2. ワークショップ  
3. 市民満足量調査

土地利用の考え方  
1. 土地利用  
2. 都市構造

## 基本構想

### 基本理念

地域の力を活かす みんなが主役のまちづくり

### めざすまちの姿

笑顔

かがやく

活力

みなぎる

希望

あふれる

### まちづくりの推進方針

つくる

人を育み、雇用の場をつくり、活力がみなぎり、安全で安心なまちづくりを進めます。

つなぐ

歴史・文化・自然を次の世代に継承し、人と人、人と地域をつなぎ、連帯感があり、絆が深まるまちづくりを進めます。

つかむ

市民ニーズ、社会環境の変化をつかみ、時代を先取りした政策を実行し、訪れたい、住んでみたいと思えるまちづくりを進めます。

### まちづくりの大綱

子育て環境の充実と人と文化を育むまちづくり

健やかで安心できる支え合いのまちづくり

雇用の創出とにぎわいのあるまちづくり

豊かな自然環境の保全と快適にさせるまちづくり

災害への備えと都市機能の充実したまちづくり

大綱の推進手法

基本計画

実施計画

## 総合計画審議会開催予定

回数	日にち	曜日	時間	場所	審議内容等	備考
4	6/4	木	13:30~15:30	大会議室	基本構想骨子案審議	
5	7/6	月	10:00~12:00	大会議室	基本構想案審議	諮問
6	7/27	月	10:00~12:00	E302会議室	基本構想案審議	
7	8/6	木	10:00~12:00	大会議室	基本構想案審議	基本構想決定

非公開のもの以外は、プレスリリース、広報つやま・市HP掲載により随時情報発信します。